

Peregrine

AssetCenter



カスタマイズ

(c) Copyright 2005 Peregrine Systems, Inc.
All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Incorporatedが所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine Systems ®およびAssetCenter ®は、Peregrine Systems, Inc.の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方法を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

本製品に関する技術情報の請求、またはライセンスをお持ちの製品に関するマニュアル類の請求については、Peregrine Systemsのカスタマサポート (support@peregrine.com) までお寄せください。

本マニュアルに関するご意見やご要望は、Peregrine Systems, Inc.の出版部 (doc_comments@peregrine.com) までお寄せください。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン4.4に適用されます。

AssetCenter

Peregrine Systems, Inc.
3611 Valley Centre Drive San Diego, CA 92130
858.481.5000
Fax 858.481.1751
www.peregrine.com



目次

PEREGRINE

はじめに	9
本マニュアルの使用目的	9
本マニュアルの対象ユーザ	9
本マニュアルの内容	10
 I. クライアントコンピュータをカスタマイズする	 13
1. ユーザのコンピュータでAssetCenterをカスタマイズする	15
モジュールを起動する	15
ツールバーをカスタマイズする	16
タブページをカスタマイズする	18
一般的なオプション	19
ボタンのカスタマイズ	21
ユーザ設定	23
 2. ビューの使用法	 25
ビューの定義	26
ビューを作成する	27
ビューを表示する	27
ビューを削除する	27
ビューを変更する	28
ビューを編集するには	28
画面上のボタンへのビューの関連付け	29

II. データベースのカスタマイズ	31
3. データベースのカスタマイズ	33
既存のオブジェクトをカスタマイズする	33
新規オブジェクトの作成	43
テスト用データベースで用意されたカスタマイズ	65
複数のオペレータによって同時に行なわれたカスタマイズ	69
4. データベースオプション	97
データベースオプションを設定する	97
データベースオプションの設定ウィンドウ	98
インデックス	107



図の一覧表

1.1. 詳細画面のタブページの選択	19
2.1. ビューに保存される項目	26
3.1. AssetCenter Database Administrator - メイン画面	34
3.2. 複数のオペレータによるカスタマイズ - 単純なプロセス	71



表の一覧表

3.1. フィールドとリンクのヘルプが認識するHTMLタグ	40
3.2. 文字参照	41
3.3. データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル	88
4.1. データベースオプション - 使用可能なオプション	99



PEREGRINE

はじめに

本マニュアルの使用目的

本マニュアルは次のレベルのAssetCenterのカスタマイズ方法について説明します。

- クライアントコンピュータレベル
- データベースレベル

本マニュアルの対象ユーザ

本書は次のようなユーザを対象としています。

- ユーザインタフェースをカスタマイズしたいAssetCenterのエンドユーザ
- AssetCenterデータベースをカスタマイズしたいAssetCenter管理者

本マニュアルの内容

「ユーザのコンピュータでAssetCenterをカスタマイズする」の章

本章では、クライアントコンピュータでのAssetCenterユーザインタフェースのカスタマイズ方法について説明します。

- 有効なモジュール
- ツールバー
- タブページ
- 一般的なオプション
- ボタン

「ビューの使用方法」の章

本章では、ビューの作成、表示、削除、変更用法およびビューとボタンとを関連付ける方法について説明します。

「データベースのカスタマイズ」の章

本章では、AssetCenterデータベースのカスタマイズ方法について説明します。

- 既存のオブジェクトをカスタマイズする
- 新規オブジェクトを作成する
- テスト用データベースでカスタマイズの準備を行う
- チームとしてカスタマイズプロセスを管理する

「データベースオプション」の章

本章では、データベースオプションの設定方法について説明します。

これらのオプションは、データベースに接続するすべてのクライアントコンピュータに共通です。

本書で使用される表記法

本書で使用される表記法は以下の通りです。

表記法	説明
Java Scriptコード	コードやコマンドの例

表記法	説明
Courier体のテキスト	DOSコマンド、関数のパラメータおよびデータフォーマット
その他	コードまたはコマンドの省略
注意:	補足情報
補足情報は...	
重要項目:	重要な情報
以下の注意事項は...	
ヒント:	ヒント
使用上のヒント...	
警告:	非常に重要な情報
警告情報	
[オブジェクト名]	AssetCenterのインターフェイスのオブジェクト：メニュー、タブ、ボタン

次の規則も適用されます。

- 指定した順番で実行するステップは、次の例のように番号を付けて表示されます。
 - 1 手順1
 - 2 手順2
 - 3 手順3
- すべての図とテーブルには、それぞれが属する章と、その章に記載されている順番に応じた番号が付いています。例えば、第2章の4番目のテーブルのタイトルは、表2-4 というように表されます。



クライアントコンピュータをカスタマイズする

パート



1 ユーザのコンピュータでAssetCenterをカスタマイズする

本章では作業環境をカスタマイズする方法を説明します。

本章の内容は以下の通りです。

- 必要な機能のみ選択する
- 画面上での情報の表示方法をカスタマイズする
- ニーズに最も適したインターフェースを使用するオプションを定義します。

すべてのユーザが、使用しているコンピュータ上で個々にAssetCenterをカスタマイズできます。これらの変更は、他のユーザのコンピュータ上のAssetCenterには影響しません。

デフォルトの画面設定に戻す場合は、[ツール／画面の最初期化] メニューを選択すると、カスタマイズのオプションをセッション中にキャンセルできます。

モジュールを起動する

AssetCenterでは、コンピュータ上で起動するモジュールを制限することができます。各モジュールはそれぞれ機能の一部をカバーし、機能に応じたメニュー、画面、ウィザードをグラフィカルインターフェースに表示します。

使用しないモジュールを非アクティブ化することにより、ユーザインターフェースを簡略化することができます。

クライアントの各コンピュータでモジュールを選択し、個々に起動するには、[ファイル／モジュールの起動] メニューを選択します。

モジュールを有効または無効にするには、以下の手順のいずれかを使用してください。

- 1 モジュールのアイコンをクリックします。



注意:

矢印キーを使用してモジュールリストを上下にスクロールしたり、スペースバーを使用してリスト表示をオンまたはオフにすることができます。

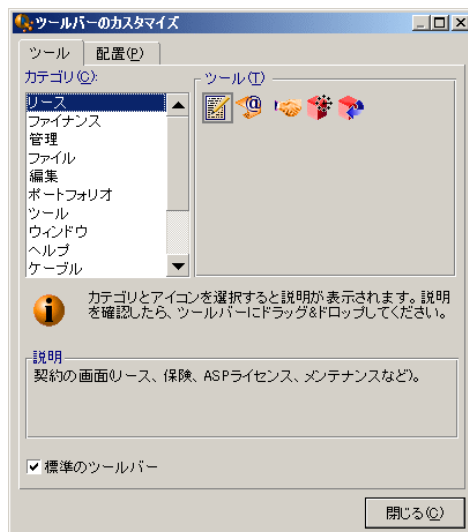
- 2 [OK] をクリックして、変更を承認します。

ツールバーをカスタマイズする

ここでは、AssetCenterのツールバーのカスタマイズ方法について説明します。

ツールバーにアイコンを追加する

- 1 [ツール／ツールバーのカスタマイズ] メニューを選択します。



- 2 追加するアイコンを含んでいる「カテゴリ」を選択します。
[ツール] 枠内にはそのカテゴリに属するすべてのボタンが表示されます。
[説明] 枠内には、選択したボタンの説明が表示されます。

- 3 [ツール] 枠でアイコンを選択し、ツールバーの希望の位置までドラッグします。
ツールバーにアイコンが挿入され、それに応じてツールバーのサイズも変更されます。

ツールバーからアイコンを削除する

アイコンを選択し、ツールバーの外にドラッグします。それに応じてツールバーのサイズも変更されます。

ツールバー内のアイコンの位置を変更する

アイコンを選択し、ツールバーの別の位置までドラッグします。ツールバーが変更され、サイズも変更されます。

ツールバーに境界線を追加する

境界線を追加したい位置の左隣にあるアイコンを選択します。次に、アイコンをアイコンの右半分程度（縦長のツールバーの場合は下半分）ドラッグします。アイコンの前に境界線が追加され、必要に応じてツールバーのサイズも変更されます。

 **注意:**

1本の境界線は2つのボタン間に挿入されます。

ツールバーから境界線を削除する

境界線の左隣のアイコンを選択し、境界線の上にドラッグします。ツールバーから境界線が削除され、必要に応じてツールバーのサイズも変更されます。

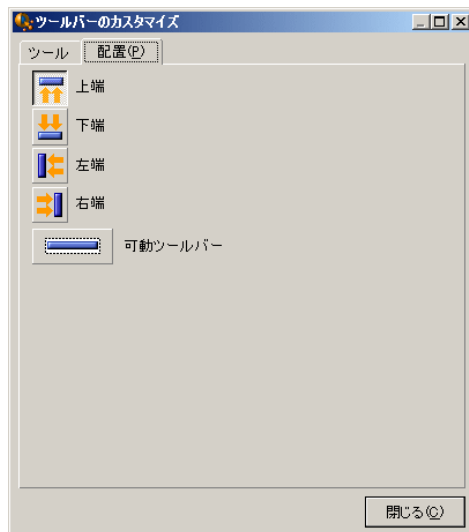
デフォルトのツールバーを表示する

AssetCenterには、標準ツールバー設定があり、この設定は [標準のツールバー] チェックボックスをオンにすると選択できます。

チェックボックスをオフにすると、カスタマイズ設定のツールバーが表示されます。

ツールバーの位置を変更する

AssetCenter画面のどこにツールバーを配置するかは、[ツールバーのカスタマイズ] ウィンドウの [配置] タブを使って変更できます。



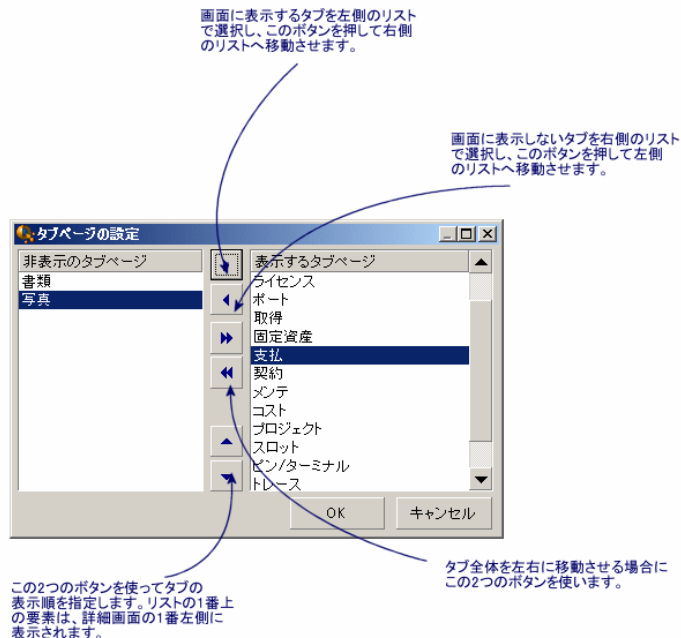
ボタンをクリックしてツールバーの位置を変更します。[可動ツールバー] を選択すると、ツールバーを画面上でドラッグすることができます。

タブページをカスタマイズする

各ユーザは詳細画面に表示するタブページとその表示順を選択することができます。タブページの表示をカスタマイズしても、他のコンピュータ上の設定は変わりません。

タブページの表示を変更するには、[ツール／タブページの設定] ショートカットメニューまたはメニューの [ツール／タブページの設定] タブを使用します。

図 1.1. 詳細画面のタブページの選択



- 非表示のTabPageを表示するには、TabPage名を左側のリストで選択しダブルクリックします。
- 表示されているTabPageを非表示にするには、TabPage名を右側のリストで選択しダブルクリックします。
- TabPageの表示順を選択するには、項目を選択し、矢印ボタンを使って項目を1つずつ希望の位置に移動させます。リストで最上位のTabPageが詳細画面の一番左に表示されます。

一般的なオプション

AssetCenterオプションのパラメータを変更するには、[編集／オプション] メニューを使用します。

 注意:

これらのオプションは、ワークセッション中に定義を行ったコンピュータ、または定義を行ったユーザ（つまりログイン名）のどちらかに関連付けられます。コンピュータに適用されるオプションは、そのユーザが接続していない状態では使用できません。

オプションの内容を知るには、

- 1 [編集／オプション] メニューでオプションのウィンドウを表示します。
- 2 オプションを選択します。
- 3 オプションのウィンドウに表示される [説明] フィールドを参照します。

オプションを変更するには、

- 1 [編集／オプション] メニューでオプションのウィンドウを表示します。
- 2 変更するオプションを選択します。
- 3 [値] の列をクリックします。
- 4 リストがある場合にはリストから値を選択します。またはキーボードで値を入力します。

 注意:

[OK] をクリックすると、オプションウィンドウで変更された内容が保存されます。

ボタンの機能

- [リセット] : 全オプション値がデフォルト値へ戻され、リセットされた値が保存されます。

 警告:

リセットをキャンセルすることはできません。
オプションの一部のみをリセットすることはできません。

- [適用] : 全オプション値を保存しますが、ウィンドウは開いたままになります。

 警告:

この操作をキャンセルすることはできません。

- [OK] : 全オプション値を保存し、ウィンドウを閉じます。

管理者用の情報

オプションには次の種類があります。

- データベースから独立したオプション
オプション値は、オプションを定義するコンピュータのハードディスクに保存されます。
- データベースに依存するオプション
オプション値はデータベース内に保存され、オプションの変更時に使用されたログインへ関連付けられます。
他のユーザが別のコンピュータからデータベースへ接続しても、同一のログインを使用する場合、同じオプション値を使用することになります。



ヒント:

オプションがデータベースから独立しているかどうかを確認するには、

- 1 データベースは接続せずにAssetCenterを起動します。
- 2 [編集／オプション] メニューでオプションのウィンドウを表示します。
- 3 この状態でオプションのリストを開きます。表示されるのはデータベースから独立したオプションで、これらはオプションを変更するコンピュータのハードディスクに保存されます。

ボタンのカスタマイズ

画面上のボタンは、以下のオブジェクトタイプのどれにでも関連付けることができます。

- アクション
- 画面
- ビュー
- 書式
- レポート

ボタンの主機能は有効なままです（例えば、[複製] ボタンはレコードを複製します）。ただし、、 および  ボタンは例外で、関連付けを行うと主機能は実行されなくなります。

オブジェクトは以下のように関連付けされます。

- [新規作成] ボタンと [複製] ボタンの主機能の前。
- [作成]、[変更] および [作成／複製] ボタンの主機能の後。

関連するオブジェクトの実行でエラーが発生した場合、ボタンの主機能は実行されないこともあります。

必要条件

ボタンを変更してオブジェクトに関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 オプションウィンドウを表示します（[編集／オプション]）。
- 2 オプション [編集／プロセスの設定を可能にする] を選択します。
- 3 値を [はい] に設定します。
- 4 [OK] をクリックします。

オブジェクトのボタンへの関連付け

オブジェクトをボタンに関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 ボタンが属する画面を表示します（[ポートフォリオ／コンピュータ] など）。
- 2 変更するボタンを右クリックし、ポップアップメニューから [カスタマイズ] を選択します。
- 3 関連付けるオブジェクトを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

ボタンに関連付けられたオブジェクトの変更

ボタンに関連付けられたオブジェクトを変更するには、次の手順に従います。

- 1 ボタンが属する画面を表示します（[ポートフォリオ／コンピュータ] など）。
- 2 変更するボタンを右クリックし、ポップアップメニューから [編集] を選択します。
- 3 新たに関連付けするオブジェクトを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

ボタンに関連付けられたオブジェクトの削除

ボタンに関連付けられたオブジェクトを削除するには、次の手順に従います。

- 1 ボタンが属する画面を表示します（[ポートフォリオ／コンピュータ] など）。
- 2 変更するボタンを右クリックし、ポップアップメニューから [カスタマイズ 設定の削除] を選択します。

**警告:**

確認を求められることはありません。

補足情報

ボタンに対する変更はただちにデータベースに保存されます。[管理/データベース設定の保存] メニューを使用する必要はありません。

カスタマイズウィンドウに表示されるオブジェクトは、機能ドメインの順番に並べられます。

AssetCenter Database Administratorでは以下のことも可能です。

- 画面に新規ボタンを追加する
- オブジェクトをボタンに関連付ける

詳細については、以下を参照してください。

- 本マニュアルの「[ボタン \[修献2\]](#)」の節。
- 本マニュアルの「[アクション用ボタンの作成 \[修献8\]](#)」の節。

ユーザ設定

デフォルトでは、AssetCenterはユーザ設定を [amSysConfig] テーブルに保存します。ユーザが設定（オプション、ウィンドウサイズ、有効モジュール、リストおよびサブリスト設定、フィルタとビューなど）を変更すると、データベースの対応するレコードが更新されます。

ユーザが設定を更新できないようにし、デフォルトの設定を定義するには、次の手順に従います。

- AssetCenterをカスタマイズして、必要なユーザ設定を作成します。この設定を標準の設定として使用します。
- [管理/画面一覧] メニューを選択します。
- [amSysConfig] テーブルを選択します。
- [セクション] がUserで始まるすべてのレコードを選択して複製します。

**注意:**

この複製の目的は、元のユーザ設定を保存しておくことです。

- [amSysConfig] テーブルの [Employeeid] の値を0に設定するアクションを定義します。これは、設定をすべてのユーザに適用するように指定するためです。このためには、次の手順に従います。

- [ツール／アクション／編集] メニューを選択します。
- [新規作成] をクリックし、アクションの [名前] を定義し（例えば、[Config] ）、[コンテキスト] として [amSysConfig] を選択し、[タイプ] として [スクリプト] を選択します。
- [スクリプト] タブで、次のスクリプトを入力します。

```
Set [lEmplDeptId]=0
```

- [作成] をクリックして作成を終了します。
- 先ほど複製したレコードに対してこのアクションを実行します。
- すべてのユーザに対して、[amSysConfig] テーブルに対する読取り専用のユーザ権限を定義します。

**注意:**

ユーザ権限の定義の詳細については、マニュアル『管理』の「データベースへのアクセスの管理」の章を参照してください。

**重要項目:**

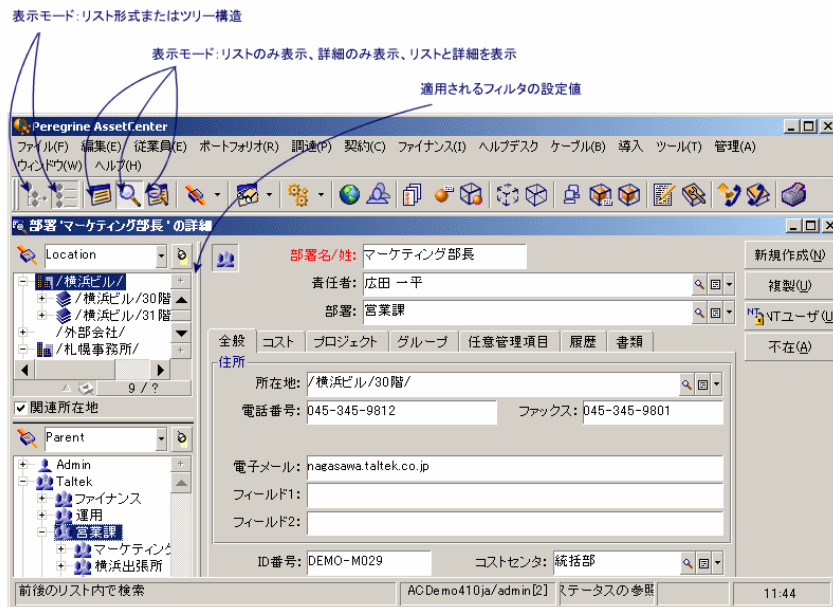
この手順が有効なのは、まだデータベースに接続したことがないユーザに対してだけです。これらのユーザは [amSysConfig] テーブルにまだレコードを持っていないからです。すでにデータベースに接続したことのあるユーザの場合、ユーザ設定がテーブルに保存されています。これらの設定を無効にしてデフォルトの設定を適用するには、そのユーザに対応するレコードを削除する以外に方法がありません。



2 ビューの使用方法

本章では、AssetCenterのビューの使用方法について説明します。
ビューのリストを表示するには、[ツール／ビュー] メニューを選択します。

図 2.1. ビューに保存される項目



ビューの定義

ビューを使うと、リストの次の表示条件を保存することができます。

- 表示モード: [ツリー構造で表示] または [リスト形式で表示]
- 表示モード: [詳細のみ]、[リストのみ]、または [リストと詳細]
- 並べ替えの基準
- 適用するフィルタとフィルタの値
- リストと表示列の幅
- ウィンドウのサイズ

ビューを作成すると、定期的に作成する必要があるレポートを簡単に作成できます。一度ビューを保存すると、毎回同じレイアウトでビューを印刷できます。

例

- 50万円を超す未割当ての資産のリストをツリー構造で表示する。
- Faxを設置しているすべてのオフィスのリストを、オフィス番号、Faxのモデル、およびユーザ名と一緒に表示する。

ビューを作成する

- 1 ビューとして保存する条件でリストを表示します。
- 2 [ツール／ビュー／現在のウィンドウから作成] メニューを使ってリスト画面を保存します。

ビューのテーブルへのアクセス権限を持つAssetCenterのユーザ全員がビューを作成できます。他のユーザがビューにアクセスできるようにするかどうかは、ビューの作成者が「共有しない」オプションを選択または選択解除することで決まります。AssetCenterの管理者は、ユーザが非公開に設定したビューも含め、ユーザ全員が作成したビューを表示、変更、および削除できます。

ビューを表示する

[ツール／ビュー] メニューから表示するビューを選択します。

メニューに表示されるビューは、自分で作成したビューと他の作成者が公開しているビューだけです（「メニューに表示」（SQL名：bVisible）オプションをオンにする必要があります）。

ビューは、保存したすべてのパラメータを使って表示されます。

同じ情報のリストが既に表示されている場合でも、新しいウィンドウが表示されます。ウィンドウタイトルにはビューの名前が表示されます。

ビューをクエリウィザードにリンクさせて、ビューに表示するレコードリストをあらかじめ絞り込んでおくことができます。

クエリウィザードの詳細については、マニュアル『はじめに』の「テーブル内で項目を検索する」の章、「クエリウィザード(QBE)」の節を参照してください。

 **注意:**

ツールバーの  ボタンを使って、ビューのリストを表示することもできます。このボタンをクリックすると、最後に表示したビューのアイコンが表示されます。

ビューを削除する

- 方法 (1)

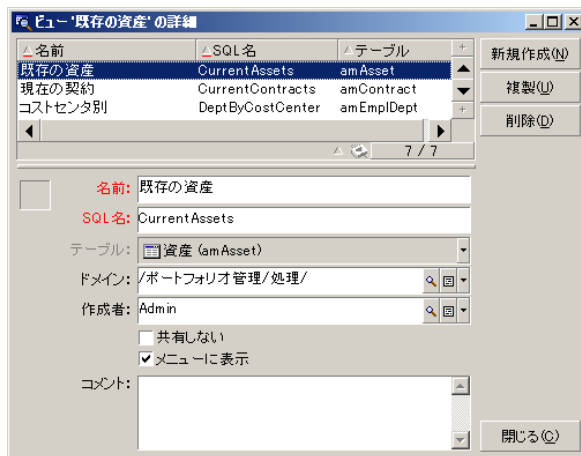
- 1 ビューを表示します。
 - 2 [ツール／ビュー／現在のビューをはずす] メニューを使って、ビューを削除します。
- 方法 (2)
 - 1 [ツール／ビュー／編集] メニューを選択して、ビューのテーブルを表示します。
 - 2 削除するビューを選択します。
 - 3 [削除] をクリックします。

ビューを変更する

- 1 ビューの画面を表示します。
- 2 ビューを変更します。
- 3 [ツール／ビュー／現在のビューを変更] メニューを使って変更を保存します。

ビューを編集するには

管理者は、[ツール／ビュー／編集] メニューを用いて既存のすべてのビューのリストにアクセスすることができます。



管理者は、選択したビューの詳細画面の各フィールドに値を入力しなければなりません。

画面上のボタンへのビューの関連付け

画面上のボタンにビューを関連付けるにはいくつかの方法があります。

詳細については以下を参照してください。

- 本マニュアルの「[ボタンのカスタマイズ \[修献1\]](#)」の節。
- 本マニュアルの「[ボタン \[修献2\]](#)」の節。
- 本マニュアルの「[アクション用ボタンの作成 \[修献8\]](#)」の節。



データベースのカスタマイズ

パート



3 データベースのカスタマイズ

AssetCenter Database Administratorでは、企業のニーズに合わせてデータベースをカスタマイズすることができます。

この場合のカスタマイズは、データベースの管理者が行います。

変更した結果は、AssetCenterのユーザの画面でも確認できます。管理者が定義した設定は、すべてのユーザのデータベース画面に同じように表示されます。管理者がフィールドまたはリンクの名前を変更すると、AssetCenterの各ユーザの画面上（特にリスト画面、詳細画面、クエリの作成画面など）にもその名前で表示されます。

次のセクションでは、AssetCenterデータベースのさまざまなオブジェクト（テーブル、フィールド、リンク、インデックス、画面など）をカスタマイズする方法について詳しく説明します。

- 既存のオブジェクト。
- 新規オブジェクト。

既存のオブジェクトをカスタマイズする

AssetCenter Database Administratorでは、データベースの既存のオブジェクトの一部のみをカスタマイズできます。AssetCenter使用時の問題発生を避けるために、一定の値とオブジェクトは読取り専用です。また、既存の詳細ページも変更不可能です。

データベースのオブジェクトをカスタマイズするためには、データベース記述ファイル（「gbbase.xml」）を編集します

AssetCenter Database Administratorでデータベースをカスタマイズするには次の2通りの方法があります。

- データベースを作成する前にカスタマイズする。
- データベースを作成した後にカスタマイズする。

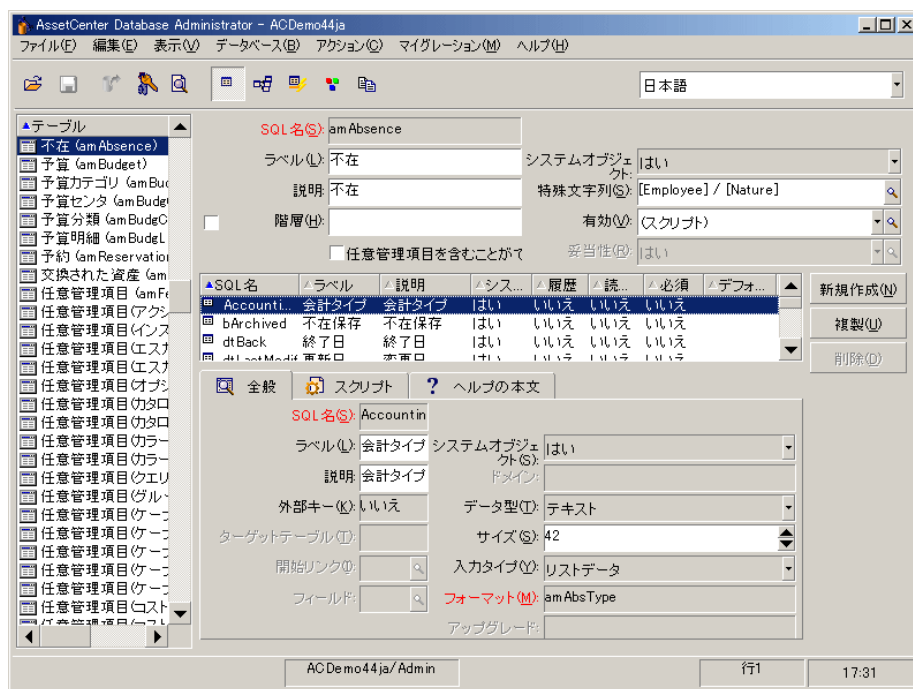
注意:

ただし、テキストフィールドのサイズだけは、データベースを作成する前でないとは変更できません。

上記のそれぞれの方法について、次の2段階のカスタマイズが可能です。

- テーブルのカスタマイズ
- テーブルのオブジェクト（フィールド、リンク、インデックス、画面、ページ）のカスタマイズ

図 3.1. AssetCenter Database Administrator - メイン画面



テーブルのカスタマイズ

テーブルをカスタマイズする場合は、次の変更が可能です。

- [説明] フィールド
- [名前] フィールド。AssetCenterで表示するテーブル名です。
- [特殊文字列] フィールド。AssetCenterでこのテーブルのレコードを表示する文字列を構成できます。
- [有効] フィールド。データベース内の特定のテーブルの全レコードに適用されます。選択しているテーブル内のレコードを作成または変更できるかどうかを定義できます。
 - このフィールドを[はい]に設定すると、そのテーブルで常時レコードを作成または変更できます。
 - このフィールドを[いいえ]に設定すると、そのテーブルでレコードを作成または変更できません。
 - このフィールドを[スクリプト]に設定すると、そのテーブルでレコードを作成または変更できる条件を指定するスクリプトを定義できます。

例えば、[数値]型の任意管理項目の値が特定の限界値を超えた場合は、レコードを作成しないように制限することができます。次のスクリプトは、[amFeature] テーブルの[数値] フィールドを定義した例です。

```
if [seDataType] = 1 and [fMin] > [fMax] Then
Err.Raise(-1, " [最小] フィールドに [最大] フィールドより大きい値を入力することはできません。")
RetVal = FALSE
Else
RetVal = TRUE
End If
```

注意:

[有効] フィールドで、選択しているテーブルでのレコードの作成または変更を無効に設定する場合は、標準のBasic関数のErr.Raiseを使ってユーザの画面にエラーメッセージが表示されるように定義してください。エラーメッセージにより、ユーザにレコードを変更または作成できない理由を知らせることができます。

[SQL名] フィールドは変更できません。このフィールドはテーブルのSQL名を示します。

- [任意管理項目を含むことができる] オプションを選択すると、テーブルに任意管理項目を含めることができます。
この操作は、取り消し不可能です。

オブジェクトのカスタマイズ

2番目のカスタマイズ枠では、選択したタイプのオブジェクトがすべて一覧表示されます。

リスト内のオブジェクトを選択すると、第3のカスタマイズ枠にそのオブジェクトの詳細情報が表示されます。

注意:

赤の  アイコンは、このテーブルの主キーを表します。

黄色の  アイコンは、外部キーを表します。

 アイコンは、インデックスに属するフィールドを表します。

 アイコンは、同じインデックスが付いたフィールド一式が同じテーブル内に複数存在できないことを表します。

 アイコンは、NULL値を除き、同じインデックスが付いたフィールド一式が同じテーブル内に複数存在できないことを示します。NULL値の場合は、何回でも複製できます。

 アイコンは、1リンクを表します。

 アイコンは、nリンクを表します。

フィールド、リンクとインデックスのカスタマイズ

AssetCenter Database Administratorのカスタマイズ

このタイプのオブジェクトでは、次の変更が可能です。

〔全般〕 タブページでは、次の情報を指定できます。

- 〔名前〕 フィールド
- 〔説明〕 フィールド
- 〔サイズ〕 フィールド：テキスト型のフィールドのサイズを指定します。このフィールドは、データベースを作成する前にカスタマイズする場合、またはデータベース記述ファイルを変更する場合にのみ編集できます。最大サイズは255文字（半角の場合）です。

〔スクリプト〕 タブページでは、次の情報を指定できます。

注意:

次の属性は、指定した場合を除き、ユーザインタフェースを介してまたは外部ツールを使ってデータベースにアクセスする場合にも有効です。

- 〔履歴保持〕 フィールド：フィールドの変更履歴を保持するかどうかと、適当な条件（スクリプトによる）を指定します。

- **【読取り専用】フィールド**：ユーザインタフェースを介してフィールドを変更できるかどうかと、読取り条件（スクリプトによる）を指定します。

 注意:

外部ツールを使ってデータをインポートする場合は、この属性は適用されません。また、マッピング時にも読取り専用以外の属性は適用されません。一方、インポートスクリプトが、ソースフィールドを読取り専用のターゲットフィールドにマップした場合は、読取り専用フィールドも変更されます。

- **【無関連】フィールド**では、選択されたレコードの詳細画面での表示方法を設定します。
 - **【はい】**：要素を表示しません。
 - **【いいえ】**：要素を表示します。
 - **【スクリプト】**：表示条件を指定するスクリプトが、要素に関連付けられていることを意味します。

```
If [bDepartment] = 1 Then
  RetVal = 1
Else
  RetVal = 0
End If
```

選択されている要素が無関係の場合は表示されません。無関係でない場合（つまり関係ある場合）は表示されます。

- **【フィルタ】フィールド**は、このバージョンのAssetCenterでは使用されません。
- **【書式】フィールド**：フィールド値をデータベースに保存する前に自動的に書式化できます。

テキストフィールドには次の書式があります。

- **【標準】**：入力した通りに保存します。
- **【大文字】**：大文字に変換してから保存します。
- **【小文字】**：小文字に変換してから保存します。
- **【自動】**：先頭の文字を大文字に変換してから保存します。

数値フィールドには次の書式があります。

- **【標準】**：正と負のすべての値を指定できます。
- **【正】**：負の値を指定できません。警告メッセージが表示されます。

 注意:

この属性を変更しても、データベース内の既存の値は変換されません。

- **【必須】フィールド**では、必須フィールドにする条件を定義できます。

 注意:

フィールドを必須にすると、常に表示されるわけではない場合（他のフィールドの値に応じて表示される場合など）に問題が発生することがあります。フィールドを設定する場合またはスクリプトを記述する場合は、この点に注意してください。

- [デフォルト] フィールドではフィールドのデフォルト値を指定します。フィールドとリンクのデフォルト値は、次の値で構成されます。

 注意:

AssetCenterで作成した新しいレコードには、自動的にデフォルト値が適用されます。そのレコードを作成または変更したユーザは、デフォルト値を変更できます。

デフォルト値は、レコード作成時にのみ適用されます。

例えば、レコードAを作成したときにフィールドxのデフォルト値がレコードBのフィールドyを参照している場合は、レコードAを作成した後にフィールドyまたはレコードBを変更しても、フィールドxの値は変わりません。

- 引用符 (" ") で囲まれた定数値
- スクリプト関数が返す値
- データベース内で参照する他のフィールドの値

例：

```
RetVal="DS"+AmCounter("納入",2)+AmDate()
```

- AmDate()は、レコードの作成日を表します。
- AmCounter("納入",2)は、1ずつ増減する「納入」カウンタの現在の値を2桁で表示することを表しています。

[ヘルプの本文] タブページでは、データベースの各オブジェクト固有のヘルプをカスタマイズできます。AssetCenterでこのヘルプを表示するには、[Shift+F1] キー（または [ヘルプ/フィールドのヘルプ] ポップアップメニュー）を使います。このヘルプの本文は、デフォルトで「説明」、「例」、「注」の3つのセクションから構成されます。これらのセクションのタイトルは、[フィールドのヘルプ] のテーブル（SQL名：amHelp）で、SQL名が「Comment」、「Sample」、「Warning」のリンクのラベル（名前）を変更すればカスタマイズできます。

 注意:

カスタマイズ画面の下部に表示されるその他のフィールドは、情報の提供のみを目的としており、カスタマイズはできません。この画面で実行できるオブジェクトの設定は、AssetCenterの [オブジェクトの設定] ポップアップメニューを使って同じように実行できます。

フィールドとリンクのデフォルト値 - 追加情報

特殊フィールド：

〔特殊文字列〕および〔BASICスクリプト〕タイプの特殊フィールドのみが、標準フィールドのデフォルト値の計算に使用されます。

コメント(amComment)テーブルへのリンク："

このテーブルへのリンクに、デフォルト値を割り当てることはできません。

アクセス制限：

フィールドのデフォルト値は、アクセス制限に関係なく計算されます。そのため、デフォルト値を定義する場合は、すべてのユーザが参照できるフィールドとリンクを参照するように設定してください。

カウンタ：

フィールドのデフォルト値がカウンタを参照するように定義することができます。

カウンタを定義すると、そのフィールドを含んでいるレコードを新しく作成するたびに、AssetCenterが前のレコードの数値に1を足した数値を新しいレコードに挿入します。

カウンタは、管理者が〔管理／カウンタ〕メニューを使って管理します。

フィールドのデフォルト値の式にカウンタを挿入するには、このメニューを使って事前にカウンタを作成しておく必要があります。カウンタ名にスペース、「\$」、「(」、または「)」の記号を使うことはできません。

必要な数だけカウンタを作成できます。

AssetCenterユーザのインタフェースには、カウンタ名は表示されません。

〔新規作成〕ボタンをクリックすると、直ちにカウンタが増加します。〔作成〕ボタンをクリックしないでレコードの作成をキャンセルしても、カウンタの数値は減少しません。

カウンタの値は再調整できます。

カウンタの詳細画面に表示される値は、最後にカウンタを実行したときの結果です。

 **注意:**

AmCounter(<カウンタ名>)の代わりにAmCounter(<カウンタ名>, [n])などの式をフィールドのデフォルト値に入力すると、カウンタの値はn桁で表示されます。

エラー：

デフォルト値を記述するときに犯しやすい間違いは、以下のとおりです。

実行エラー - タイプエラー

変数がフィールドのデータ型と互換性がない場合があります。例えば、日付型のフィールドにAmLoginName()を定義する場合がこれに該当します。

フィールド「XXX」が「XXX」に存在しない

リンクを参照することを定義する場合は、名前でリンクを参照するように「Link.Link.Field」フォーマットを使う必要があります。このフォーマットによって、AssetCenterは直接リンクをたどることがきます。

例えば、資産のデフォルトの責任者を設定する場合は、「CostCenter.Supervisor」と指定するとコストセンタの責任者をデフォルト値として適用することができます。

AssetCenterのユーザが資産のコストセンタのフィールドに入力すると、その値が直ちに資産の責任者フィールドにデフォルト値として入力され、データベースに保存されます。

フィールドとリンクのヘルプ

AssetCenterフィールドの状況依存ヘルプシステムでは、HTML言語のサブセットを使用しています。主にツール名の書式設定などに使われている数種類のタグを使用しています。ここでは、HTML言語の詳しい説明は省略し、AssetCenterで管理するHTMLタグについてのみ簡単に説明します。



注意:

ユーザが入力しなければならないHTMLタグの一覧は、次の表のとおりです。これらのタグは、その他のオンラインヘルプに使用されている表記規則とは異なります。

表 3.1. フィールドとリンクのヘルプが認識するHTMLタグ

HTMLタグ	説明
	このタグに続くテキストを表示するフォントを定義します。このタグの後に別のフォントタグの指定がない限り、このフォントが適用されます。
	このタグに続くテキストを表示するフォントの色を定義します。このタグの後に別の色タグの指定がない限り、この色が適用されます。
	フォントサイズを"n"レベル大きくします。このタグの後に別のサイズタグの指定がない限り、このサイズが適用されます。
	フォントサイズを"n"レベル小さくします。このタグの後に別のサイズタグの指定がない限り、このサイズが適用されます。
 	この2つのタグで囲んだテキストが太字で表示されます。

HTMLタグ	説明
<I> </I>	この2つのタグで囲んだテキストが斜体で表示されます。
	このタグは、箇条書きの開始を表します。テキストを改行し、テキストの先頭に行頭記号を挿入します。
<HR>	セクションの区切りを示す水平線を引きます。

HTML言語の詳細については、HTMLに関する書籍を参照してください。

表示する文字：

HTML言語の文字参照は次の表のとおりです。これらの文字を入力しても、画面にはそのとおりには表示されません。希望の文字を表示するには、対応するタグを代わりに入力する必要があります。

表 3.2. 文字参照

表示する文字	文字を表示するためのタグ（文字参照）
"<"	"<"
"&"	"&"
連続するスペース（空白文字）	" "

AssetCenterのカスタマイズ

ショートカットメニューの「オブジェクトの設定」コマンドを使用して、データベースフィールドとリンクをカスタマイズすることができます。

「オブジェクトの設定」ポップアップメニューを表示するには、設定するフィールドに移動し、マウスの右ボタンをクリックします。

注意:

ショートカットメニューを使った場合、変更が記録されるのは、データベースを閉じて承認メッセージを確認するか、「管理／データベース設定の保存」メニューを選択した場合です。

AssetCenter Database Administratorの「ヘルプ」タブページで、フィールドまたはリンクのヘルプの内容を次の構成に従って変更することもできます。

- 説明：フィールドまたはリンクの内容を説明します。
- 例：フィールドまたはリンクの入力例を示します。
- 注：データ入力に関する注意事項、関連の自動処理機能などを示します。

フィールドのヘルプシステムは、HTML言語のサブセットです。

詳細のカスタマイズ

このタイプのオブジェクトでは、次の変更が可能です。

[全般] タブページでは、次の情報を指定できます。

- [名前] フィールド
- [リスト／詳細] タブページでは、次の情報を指定できます。
 - [リスト/詳細の割合]
 - [詳細のタイトル]
 - [リストのタイトル]
 - [システムフィルタ]
 - [機能ドメイン]
 - [リストの列]

ボタン

[ボタン] タブでは、画面上のボタンの作成、変更、削除、整理を実行できます。

ボタンは以下の任意のオブジェクトタイプに関連付けることができます。

- アクション
- 画面
- ビュー
- 書式
- レポート

ボタンを作成するには:

- 1  ボタンをクリックします。
- 2 タブ内のボタンのリストに行が追加されます。行内の各セルをクリックし、ボタンの次のプロパティを定義します。
 - 名前：ボタンの内部名。ボタンを固有の名前で識別できるようになります。
 - テキスト：ボタン上に表示されるテキスト
 - 説明：AssetCenterの画面上に表示されるボタンのタイトル
 - 複数のレコードの選択：アクションが複数のレコード上に実行されるかどうかを指定します。
 - 選択なし：レコードを選択せずにアクションを実行できるかどうかを指定します。
 - 関連アクション：ボタンをクリックすると実行されるアクションを定義します。このフィールドのシンタックスは以下のとおりです。

<アクションタイプ>:<アクションまたはビューなどのSQL名...>

このシンタックスでは、アクションタイプ用に以下の値を使用できます。

- A：アクション
- S：画面
- V：ビュー
- F：書式
- R：レポート
- 妥当性：ボタンが表示／非表示であるか、またはスクリプトが表示を条件付けるかどうかを指定します。

ボタンを変更するには

- 1 ボタンに対応する行を選択します。
- 2 各セルをクリックしてボタンのプロパティを定義します。

ボタンが標準ボタンの場合、主機能が引き続き使用可能です（例えば、[複製] ボタンは常にレコードを複製します）。ただし、以下のボタンは例外です：、 および 。これらのボタンをオブジェクトに関連付けることは可能ですが、主機能は使用できなくなります。

関連付けられたオブジェクトは以下のようにトリガされます：

- [新規作成] および [複製] ボタンの主機能の前
- [作成]、[変更] および [作成／複製] ボタンの主機能の後

関連付けられたオブジェクトが正しく実行されなかった場合、オブジェクトの主機能がキャンセルされる場合があります。

ボタンを削除するには

- 1 [ボタン] タブ内のリストからボタンを選択します。
- 2  をクリックします。
- 3 [変更] をクリックします。

ボタンの順序を変更するには

詳細画面に表示されるボタンの順序を変更するには、 ボタンと  ボタンを使用します。

新規オブジェクトの作成

AssetCenter Database Administratorではデータベース用に新規オブジェクトを作成できます。

**警告:**

空のデータベースを使用するようお勧めします。本番データベースを変更する場合は、変更事項を保存した後にデータベースの検証と修復を実行します（「アクション／診断／データベースの修復」メニュー）。

特殊フィールドの作成方法

以下の手順は新規オブジェクトの作成方法の1例です。ここでは新規テーブルの作成を例に取ります。各手順は各節ごとに説明されています。

- テーブルを作成する
- テーブルのフィールド、リンクとインデックスを作成する
- テーブルの詳細を作成する
- 必要に応じて、詳細のアクション用ボタンを作成する
- 詳細のページを作成する
- ページを詳細に追加する
- 変更を保存する
- またはカスタマイズを伝達し、適用する

テーブルの作成

新規テーブルを作成するには、

- 「データベース／テーブルの追加」メニューを選択します。
- テーブル作成用のウィンドウが表示されます。
- このウィンドウでテーブルに関連する一般的なフィールドに値を入力します。
 - 「SQL名」フィールドに、新規テーブルを識別するための固有の名前を指定します。この名前はBasicスクリプト内でも参照されます。
 - 「ラベル」フィールドに、AssetCenterで表示されるテーブル名を入力します。
 - 「説明」フィールド
 - 「主キー」フィールドに、テーブルの主キーとして使用されるフィールドのSQL名を入力します。
 - 任意管理項目を新規テーブルに関連付ける場合は、「任意管理項目の追加」オプションを選択します。AssetCenter Database Administratorは、任意管理項目に必要なテーブルを自動的に追加作成します。
- 「作成」をクリックすると、AssetCenterはテーブルと主キー用のフィールドを作成します。この時点でテーブルのフィールドを編集できます。

- ▶ マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章、「テーブルの説明」の節。

フィールド、リンクとインデックスの作成

フィールドを作成するには、

- 1 [データベース／フィールドの追加] メニューを選択します。
 - 2 フィールド作成用のウィンドウが表示されます。
 - 3 このウィンドウで以下のフィールドに値を入力します。
 - [SQL名] フィールド
 - [ラベル] フィールド
 - [説明] フィールド
 - [入力タイプ] フィールド
 - 4 インデックスを作成する場合は、[このフィールドのインデックスを作成] オプションを選択します。
- フィールドを作成した後は、フィールドのサイズまたは形式のみを変更できます。

注意:

フィールドの入力タイプに関する注意事項

- [カスタムリストデータ] タイプのフィールドは、以下のシンタックスに従う必要があります。

自由入力のテキスト

入力されたテキスト（[フォーマット] フィールド）は、リストデータの詳細の[識別子] フィールドに対応します。

- [システムリストデータ] タイプのフィールドは、以下のシンタックスに従う必要があります。

未承認|0|承認済|1|却下|2

- [期間] タイプのフィールドは、以下のシンタックスに従う必要があります。

%Yl%Ml%Dld%H%N%S

- Y、M、D、H、N、Sは、それぞれ年、月、日、時間、分、秒を定義します。
- l (long) は、期間の単位を完全表示するかどうかを指定します。
- dは、期間をデフォルト値として定義します。

- ▶ マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章、「フィールドの説明」の節。

リンクを作成するには、

- 1 [データベース／リンクの追加] メニューを選択します。
 - 2 フィールド作成用のウィンドウが表示されます。
 - 3 このウィンドウで以下のフィールドに値を入力します。
 - [リンクタイプ] フィールド
 - ソーステーブル用には、以下のフィールドに値を入力します。
 - [SQL名] フィールド
 - [ラベル] フィールド
 - [説明] フィールド
 - ターゲットテーブル用には、以下のフィールドに値を入力します。
 - [テーブル] フィールド。ターゲットフィールドを指定します。
 - [SQL名] フィールド
 - [ラベル] フィールド
 - [説明] フィールド
 - 4 インデックスを作成する場合は、[このリンクのインデックスを作成] オプションを選択します。
- ▶ マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章、「リンクの説明」の節。

注意:

リンクのタイプに関する注意事項

- 「1-N」リンクタイプは、Normal、Define、Own、OwnCopy、Overflowです。
- リンク「1-1」のタイプには、Normal、OwnCopy1、Copy1、Own1、およびNeutDef1があります。
- リンク「N-N」のタイプには、RelNN、NNCopy、およびCopyNNがあります。

インデックスを作成するには、

- 1 [データベース／インデックスの追加] メニューを選択します。
- 2 各オブジェクトのプロパティに値を入力します。プロパティに関しては「オブジェクトのカスタマイズ」の節を参照してください。

階層テーブルを作成する

階層テーブルを作成するとは、同テーブル内に親リンクを作成することを意味します。

あるテーブル内に親リンクが作成されると、同テーブル内に子リンクが存在することになります。

親リンクを作成するには、

- 1 [データベース／親リンクの追加] メニューを選択します。
- 2 フィールド作成用のウィンドウが表示されます。

- 3 このウィンドウで以下のフィールドに値を入力します。
 - [SQL名] フィールド
 - [ラベル] フィールド
 - [説明] フィールド
- 4 以下のシンタックスに従って、[階層] フィールドに値を入力します。

<親リンクのID>,<階層用に使用されるフィールドの名前>

例えば、[製品] テーブルを例に取り上げると、親リンクの[階層] フィールドには、以下のように値が入力されているはずです。

|ParentId,InternalRef

上記の操作が実行されると、FullNameフィールドが作成されます。このフィールドは、テーブル内の固有の識別子の1つです。

▶ マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章、「インデックスの説明」の節。

詳細の作成

詳細には、テーブルのオブジェクト内に格納された情報がグラフィカルに表示されます。AssetCenterでメニューやビューを選択したり、ツールバーのアイコンをクリックしたりする時に表示される画面は、詳細の例にあたります。詳細には複数のページがあり、AssetCenterのインタフェースではタブとして表示されています。

注意:

AssetCenterに付属している標準の詳細は、アプリケーションの機能をサポートしています。これらの詳細を編集または変更することはできません。既存の詳細にページを追加する場合は、既存の詳細を複製し、名前を付けてから必要な要素を追加します。

詳細を作成するには、

- 1 左側の枠内で、新規詳細の作成先のテーブルを選択します。
- 2 [表示／詳細] メニューを選択するか、またはツールバーの  をクリックします。
- 3 [データベース／詳細の追加] メニューを選択するか、または[新規作成] ボタンをクリックします。
- 4 [全般] タブのフィールドに以下のデータを入力します。
 - [SQL名] : 詳細のSQL名。この名前により、詳細の識別が可能になり、詳細をスクリプトやクエリ内で参照できるようになります。
 - [ラベル] : 詳細のラベル

5 【リスト／詳細】 タブの以下のフィールドに値を入力します。

- 【リストのタイトル】：画面のリスト内（AssetCenterの【管理／画面一覧】）に表示される詳細のタイトルを指定します。
- 【詳細のタイトル】：AssetCenterに表示されるウィンドウのタイトルを指定します。記述文字列がこのタイトルに追加されます。
- 【ドメイン】：詳細の機能ドメイン。入力する機能ドメインがデータベース内に存在する場合（AssetCenterの【管理／機能ドメイン】メニューで作成できます）、自動的にリンクが作成され、機能ドメイン枠内から画面に直接アクセスできるようになります。
- 【リスト／詳細の割合】：詳細とリスト間の割合。
- 【リストの列】：このフィールドでは、リストに表示される列を定義できます。シンタックスは以下のとおりです。

<列用のフィールドのSQL名1>,<列の幅>,...

6 【作成】 をクリックします。

これで画面の空のシェルを作成したことになります。この画面にフィールド、リンクやアクション用ボタンを含んだページを追加します。

アクション用ボタンの作成

AssetCenter Database Administratorでは、詳細用のボタンを作成することができます。ボタンはアクションの実行、画面の表示、レポートや書式の印刷、ビューの表示、などをトリガします。

ボタンを作成するには、

- 1 ボタンの追加先の詳細を選択します。
- 2 詳細の【ボタン】タブを選択します。
- 3  をクリックします。タブ内のボタンのリストに、新規要素が追加されます。
- 4 各プロパティをクリックして値を直接入力します。
 - 名前：ボタンのSQL名。この名前により、ボタンの識別が可能になり、詳細をBasicスクリプトやクエリ内で参照できるようになります。
 - テキスト：ボタンのテキストを入力します。
 - 説明：AssetCenterの画面上に表示されるボタンのタイトル。ボタン上にマウスポインタを置くと表示されます。
 - 複数のレコードの選択：アクションが複数のレコード上に実行されるかどうかを指定します。
 - 編集モード：レコードの編集集中にボタンを表示するかどうかを指定します。
 - 選択なし：レコードを選択せずにアクションを実行できるかどうかを指定します。

- 関連アクション：ボタンをクリックすると実行されるアクションを定義します。このフィールドのシンタックスは以下のとおりです。

<アクションタイプ>:<アクションまたはビューなどのSQL名...>

このシンタックスでは、アクションタイプ用に以下の値を使用できます。

- A：アクション
 - S：画面
 - V：ビュー
 - F：書式
 - R：レポート
 - 妥当性：ボタンの表示パラメータを指定します（「はい」、「いいえ」、または「スクリプト」）。
- 5 「変更」をクリックして変更事項を確定します。

ページの作成

AssetCenterのインタフェースでは、ページはフィールドを含むタブとして表示されています。ページを作成するには、

- 1 左側の枠内で、新規ページの作成先のテーブルを選択します。
- 2 「表示／ページ」メニューを選択するか、またはツールバーの  をクリックします。
- 3 「データベース／ページの追加」メニューを選択するか、または「新規作成」ボタンをクリックします。
- 4 「全般」タブのフィールドに以下のデータを入力します。
 - SQL名：ページのSQL名。この名前により、ページの識別が固有の方法で可能になり、ページをスクリプトやクエリ内で参照できるようになります。
 - [ラベル]：ページの名前。これはAssetCenterのインタフェース内でタブ名として表示されます。
- 5 「作成」をクリックします。
- 6 詳細の「内容」タブをクリックします。作成するページ内で使用可能であるフィールドを選択します。以下の方法で選択します。
 - 左のリスト（「フィールドとリンク」）で、ページに追加したいフィールドまたはリンクを選択し、 ボタンをクリックして選択したフィールドまたはリンクを右側のリスト（「フィールドのリスト」）に移動します。

次のようにしても、同様の操作を行うことができます。

 - 左側のリスト（「フィールドとリンク」）で必要なフィールドをダブルクリックします。

- 左側のリストの上のフィールドに、必要なフィールドまたはリンクのSQL名を入力し、このリストの横の  ボタンをクリックします。

 注意:

このような方法で情報を入力することにより、オブジェクトに関連付けられたコントロールのタイプを指定したり、キーワードを使用してオブジェクトの動作オプションを指定することができます。これらのキーワードについては本書で後述します。

- ページからフィールドを削除する場合は、右側のリストでフィールドを選択し、 をクリックします。右側のリストでフィールドをダブルクリックすると、同様の操作を実行できます。
- このページのレイアウトとページ上のフィールドのグラフィカルな構成内容は、AssetCenterによりデフォルトで自動設定されますが、フィールドをページに表示する順番は、左側の枠で , ,  および  ボタンを使用して指定することができます。

 注意:

ページの形（垂直および水平のセクション区切り）を制御する機能もあります。この機能はページ上のフィールドリストに追加するキーワードとして提供されます。これらの機能については本書で後述します。

7 [変更] をクリックします。

オブジェクトの動作オプションを制御する

[フィールドとリンク] リストの上のフィールドを使用してページに直接データベースオブジェクトを追加する場合、制御キーワードを使用して次のようなことが行えます。

- フィールドの入力に使用するグラフィカルなコントロールのタイプを定義する。
- コントロールのプロパティと動作オプションを定義する。

正しいシンタックスは次のとおりです。

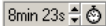
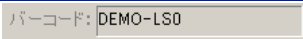
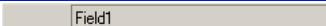
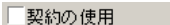
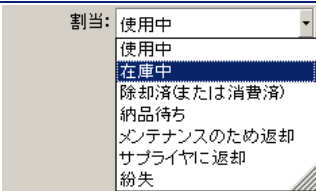
```
[<コントロールのタイプ>]<オブジェクトのSQL名>[<2番目のオブジェクトのSQL名>][<コントロールのプロパティ>=<値>"]
```

 注意:

2番目のオブジェクトのSQL名は特定のプロパティにのみ使用されます。

グラフィックコントロールのタイプ

次のテーブルで、使用可能なコントロールのタイプとその機能を説明します。

コントロールのタイプ	説明	表示例
TimerControl	期間エントリコントロール。デフォルトの表示ではこのフィールドは読取り専用であり、時間が開始しています。このタイプのコントロールに期間を入力するには、フィールドの反対側にあるアイコンをクリックします。	
Label	テキストデータ表示コントロール、読取り専用、ラベルなし。	
CaptionedLabel	テキストデータ表示コントロール、読取り専用、ラベルあり。	
MultilineLabel	テキストデータ表示コントロール、読取り専用、ラベルあり、複数行。	
Checkbox	チェックボックス、フィールドラベルあり。	
ComboList	システムリストデータ表示コントロール（クローズド、事前定義された値リスト）	
Icon	アイコンまたは画像表示コントロール。標準のコントロールと同じ高さに制限されます。	
ScrollablePicture	画像表示コントロール。画像が大きすぎる場合、スクロールバーが表示されます。	例はありません。
Picture	画像表示コントロール。	
ColorCombo	カラー選択コントロール。	

コントロールの タイプ

表示例

ComboDate 日付表示コントロール。

2005/01/01

◀◀ ◀ 2005 年 1 月 ▶ ▶▶

日 月 火 水 木 金 土

1

2 3 4 5 6 7 8

9 10 11 12 13 14 15

16 17 18 19 20 21 22

23 24 25 26 27 28 29

30 31

TimeSpanEdit 期間エントリコントロール。

見込作業時間: 0時間

MultiLineEdit 複数行テキスト編集コントロール。

問題:

Edit 標準のテキストデータエントリコントロール。

タイトル:

FileEdit ファイル選択コントロール。

NumberEdit 番号エントリコントロール。

0.00

MonetaryEdit 金額フィールドエントリコントロール。

貸方: ¥0

ItemizedList リストデータ（カスタマイズ可能な値リスト）表示コントロールを開きます。

ステータス: 発生済

LinkList リンク済みレコードリスト表示コントロール。

調整 資産 ポート 取得 固定資産 契約 メンテ コスト プロジェクト

表示(V): すべて 開始(E): 終了(F):

日付	タイトル	借方	貸方
2005/04/20	購入		¥623
2005/04/20	1 Winzip 8.1		¥0
2005/04/20	1 Windows 2000		¥0
2005/04/20	インストール		¥50
2005/04/20	1 Norton AntiVirus Corporate Editi...		¥0

5 / 5

コントロールの
タイプ

説明

表示例

Notebook

タブ設定のリンク済みレコード表示コントロール

OneToManyLinkEdit

リンク済みレコード表示コントロール。ユーザの選択に応じてリスト表示またはタブ表示を有効にします。

LinkEdit

リスト内のレコード用選択コントロール。

ReversePasswordEdit

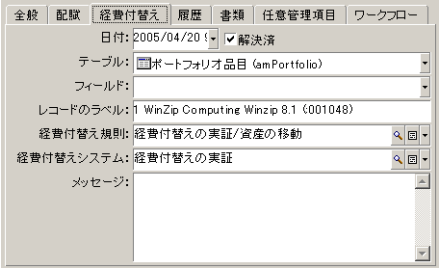
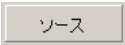
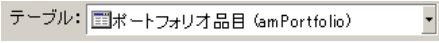
パスワードエントリコントロール。暗号化を元に戻す方法により、AssetCenterが外部システムに対して自分を認証できるようにします。

PasswordEdit

パスワードエントリコントロール。このパスワードは元に戻せません。AssetCenter のみがこのタイプのパスワードを認証できます。

QueryCalc

クエリ結果表示コントロール。コントロールの横の電卓の形をしたアイコンを押すと、クエリ結果を再計算できます。

コントロールの タイプ	説明	表示例
DistantDet	リモートの詳細画面表示コントロール（テーブル以外）。このタイプのコントロールはレコードの詳細画面を別のレコード内で表示することができます。	
ExternalRef	ボタン表示コントロールでは、タイプ付きリンク（コンテキストリンク）により指定したレコードの詳細画面を表示することができます。	
TableChoiceList	データベースのテーブル用の選択コントロール。	
OneToOneLinkEdit	「1-1」リンク選択コントロール。	

グラフィカルコントロールのプロパティ

特性	説明	プロパティを使用するコントロール
UseLabel	プロパティが「1」に設定されている場合：コントロールと反対側のフィールドラベルを表示します。プロパティが0に設定されている場合：フィールドラベルを表示しません。	すべて

特性	説明	プロパティを使用するコントロール
Caption	このプロパティの動作は、コントロールのタイプに依存します。 - OneToManyLinkEdit、LinkEdit、LinkListコントロールの場合：このプロパティではリンク済みレコードの選択ウィンドウのタイトルを定義します。 - Label、CaptionedLabelおよびMultilineLabelコントロールの場合：このプロパティではテーブルのフィールドに含まれる値のラベルを表示します。 - QueryCalcコントロールの場合：このプロパティは計算した値を説明するラベルを定義します。	Label, CaptionedLabel, MultilineLabel, QueryCalc, LinkList, OneToManyLinkEdit, LinkEdit
Query	 アイコンをクリックするとAQLクエリが実行されます。	QueryCalc
ListConfig	このプロパティではリスト内の列を定義します。次のフォーマットが使用されます。 ListConfig="<オブジェクトのSQL名>,<列のサイズ>[,]*" 例 ListConfig="Name,40,setType,30"	LinkList, OneToManyLinkEdit

特性	説明	プロパティを使用するコントロール
WhereCond	このプロパティには AQLクエリのWhere句を含めます。これによりドロップダウンリストのレコードリストにフィルタをかけることができます。 例えば、部署と従業員リストの場合、責任者（マネージャ）リンクは、次のWhereCondプロパティを持つコントロールに関連付けられます。 WhereCond="bDepartment=0" こうすると、部署はリストに表示されず、責任者の値を選択するときに使用されることはありません。	LinkList, LinkEdit
DistantDet	- OneToManyLinkEdit およびLinkEditコントロールのリンク済みレコードの詳細（アイコン）を開覧するときに表示される詳細画面のSQL名。 - DistantDetコントロールで表示される遠隔の詳細画面のSQL名。 注意: この詳細画面のフィルタはWhereCondプロパティと同じように適用されます。	OneToManyLinkEdit, DistantDet, LinkEdit

特性	説明	プロパティを使用するコントロール
AddMode	値「0」または「1」。 ボタンを使用してレコードをリストに追加する場合、このプロパティでコントロールのデフォルトユーザモードを定義することができます。 ■ プロパティを「1」に設定するとコントロールは作成モードになり、リストに選択、追加するレコードを前もって作成することができます。 ■ プロパティを「0」に設定するとコントロールは選択モードのみになり、レコードを作成するには [新規] ボタンを使用しなくてはなりません。	OneToManyLinkEdit
OnZoom	このプロパティは  ボタンをクリックすると実行されるアクションのSQL名を含みます。	OneToManyLinkEdit
OnAddLink	このプロパティは  ボタンをクリックすると実行されるアクションのSQL名を含みます。	OneToManyLinkEdit
OnRemoveLink	このプロパティは  ボタンをクリックすると実行されるアクションのSQL名を含みます。	OneToManyLinkEdit

特性	説明	プロパティを使用するコントロール
Mode	このプロパティでは次のタイプのコントロールのデフォルトの表示モードを定義します。 ■ プロパティを「1」に設定すると、コントロールはデフォルトでリストモードで表示されます。 ■ プロパティを「2」に設定すると、コントロールはデフォルトでタブモードで表示されます。	OneToManyLinkEdit
DescString	このプロパティでは、ボタンをクリックして) 選択したレコードの詳細を表すウィンドウの説明文字列を入力する必要があります。 このプロパティに使用されるフォーマットは説明文字列のフォーマットとまったく同じです。 注意: 説明文字列の詳細については、マニュアル『管理』の「テーブル説明文字列」の節を参照してください。	LinkEdit

特性	説明	プロパティを使用するコントロール
ReadOnlyDetail	このプロパティでは選択したウィンドウの詳細ウィンドウの表示モードを定義することができます。 ■ プロパティを「1」に設定すると、詳細画面は読取り専用モードで開きます。 ■ プロパティを「0」に設定すると、作業中の詳細画面を編集することができます。	LinkEdit
AllowNone	このプロパティでは選択リストの「テーブルなし」値の選択を許可または拒否することができます。 ■ プロパティを「0」に設定すると、この値は選択できません。 ■ プロパティを「1」に設定すると、この値を選択できます。	TableChoiceList
AllowNoMainField	このプロパティでは関係（中間）テーブル（amRelxxxなど）を表示することができます。 ■ プロパティを「0」に設定すると、関係テーブルは表示されません。 ■ プロパティを「1」に設定すると、関係テーブルは表示されます。	TableChoiceList

特性	説明	プロパティを使用するコントロール
OnlyFeature	このプロパティでは任意管理項目の値（amFVxxxなど）に対応するテーブルを持つテーブルを表示（または非表示）することができます。 ■ プロパティを「0」に設定すると、すべてのテーブルが表示されます。 ■ プロパティを「1」に設定すると、任意管理項目の値に対応するテーブルを持つテーブルのみが表示されます。	TableChoiceList
NoFeature	このプロパティでは選択リストで任意管理項目の値テーブルを表示することができます。 ■ プロパティを「0」に設定すると、すべてのテーブルが表示されます。 ■ プロパティを「1」に設定すると、任意管理項目の値テーブルは表示されません。	TableChoiceList

特性	説明	プロパティを使用するコントロール
HideSystem	このプロパティではユーザライセンスにしたがってテーブルのリスト表示を制限することができます。 ■ プロパティを「0」に設定すると、すべてのテーブルが表示されます。 ■ プロパティを「1」に設定すると、ライセンスで許可されたテーブルのみが表示されます。	TableChoiceList

ページのレイアウト

ユーザがページに追加するオブジェクト（フィールドやリンク）は、デフォルトで1列上に順番に表示されます。しかし、このデフォルト表示方法を変更するために縦や横の区切り線を定義することも可能です。区切り線は以下の内部変数で定義されます。

- HSplitControl：横の区切り線
- VSplitControl：縦の区切り線

区切り線を追加するには、

- 1 詳細画面の「内容」タブページに移動します。
- 2 「フィールドとリンク」リストの上にあるフィールドに、上記の2つの内部変数のうちの1つを入力します。
- 3  ボタンをクリックします。
- 4 区切り線は右のフィールドのリスト内へ移されます。区切り線を表示する順番は、他のオブジェクトの順番を変更するのと同じ方法で指定できます（、 と  ボタンを使います）。

以下の規則がページの表示に適用されます。

- 2つのHSplitControl変数間にあるオブジェクトは全て同じ横のブロックの一部を成します（1行または複数行）。
- VSplitControl変数は、横のブロック内のオブジェクトを列に分割します。

例えば、AssetCenterの従業員の「全般」タブページの表示方法は、以下のように定義されます。

```

HSplitControl_0
HSplitControl_1_Adresse
HSplitControl_2

```

```

Location
HSplitControl_2
VSplitControl_2
Phone
MobilePhone
VSplitControl_2
Fax
HomePhone
HSplitControl_2
EMail
Field1
Field2
HSplitControl_1
HSplitControl_0
VSplitControl_0
IDNo
dHire
dLeave
VSplitControl_0
BarCode
Field3
HSplitControl_0
MultilineEdit-Comment

```

アundasコア（下線）は、変数間の帰属関係を定義できます。

詳細にページを追加する

ページを詳細に追加するには、

- 1 ページの追加先の詳細を選択します。
- 2 詳細の「ページ」タブを選択します。ここで、詳細に含まれるページを選択します。
 - 左側のリスト（使用可能ページ）内で詳細に追加するページを選択し、をクリックして右側のリスト（詳細ページ）に移します。右側のリストでページをダブルクリックすると、上記と同様の操作を実行できます。

ページのリンクを選択することも可能です。これは、別のテーブルにリンクしているページを表示することを意味します。ページリンクを選択するには、「使用可能ページ」の上にあるドロップダウンリストからリンクを選択します。このリストには使用可能な1対1のリンク全てが表示されます。

 - 詳細からページを削除する場合は、右側のリストでページを選択し、をクリックします。左側のリストでページをダブルクリックすると、同様の操作を実行できます。

- タブの表示順を指定する場合は、右側のリストで ▲、▼、▼ と ▲ ボタンを使って、表示する順番にタブを並べ替えます。リスト内の最初のページは最初に表示されるタブで、最後のページは最後に表示されるタブです。

サポートする他の言語へのカスタマイズの適用

データベースに追加されたオブジェクトは、変更時にAssetCenter Database Administratorで選択されていた言語で使用できます。

以下のオブジェクトは、サポートする言語のそれぞれに対して再作成する必要があります。

- 詳細
- ページ

ヒント:

このためには、サポートする言語を1つずつ選択し（AssetCenter Database Administratorのツールバーの右側のリストを使用）、最初の言語のときと同じ方法でオブジェクトを作成します。

以下のオブジェクトは全言語向けに作成されますが、ラベルと説明は翻訳する必要があります。

- テーブル
- フィールド
- リンク
- インデックス

特定の言語で追加されたオブジェクトのラベルと説明を翻訳するには:

- 1 追加でサポートする言語を1つずつ選択します（リストはAssetCenter Database Administratorのツールバーの右側にあります）。
- 2 [アクション／説明を更新]を選択します。
- 3 各表示オブジェクトのラベルと説明を翻訳します。
- 4 [変更]をクリックして変更を確認します。
- 5 更新ウィンドウを閉じます。

変更事項の保存

変更事項を保存するには、

- 1 [ファイル／データベース構造の保存]を選択するか、またはをクリックします。

- 2 ウィザード画面に表示される指示に従います。

変更を確認する

変更事項を確認するには、AssetCenterを起動し、カスタマイズしたデータベースに接続する必要があります。上記の例では新規テーブルを作成したので、このテーブルの詳細にアクセスします。

- 1 [管理／画面一覧] メニューを選択します。
- 2 画面に表示されるリストから詳細を検索し、[OK] をクリックすると、詳細が表示されます。
- 3 ビューを作成すると便利です。[ツール／ビュー／現在のウィンドウから作成] を選択します。
- 4 [名前] フィールドにビューの名前を入力します。この名前は[機能] の枠内に表示されます。
- 5 [ドメイン] で機能ドメインを選択します。ビューの名前は、機能の枠内のこの機能ドメイン下に表示されます。
- 6 これで新規の詳細に直接アクセスできるようになりました。

重要

AssetCenterでは、全オブジェクト（特にアクション、ビューと画面）がSQL名で識別されています。オブジェクトをメニューまたは機能の枠で開く際に、AssetCenterはSQL名を使用します。複数のオブジェクト、例えばビューと画面などに同じSQL名が付いている場合、AssetCenterはオブジェクトを以下の順番で開きます。

- ビュー
- 画面

例えば、[部署と従業員]（SQL名：amEmplDept）テーブルに新規の詳細を作成し、「amEmplDept」というSQL名のビューをこの詳細に関連付けるとします。

[ポートフォリオ／部署と従業員] メニューを選択する場合、または機能の枠内で[従業員のリスト] をクリックする場合、表示されるのは新規の詳細です。

テスト用データベースで用意されたカスタマイズ

AssetCenterデータベースをカスタマイズする場合、元のデータベースの整合性を保持するために、データベースのコピーを使用するようお勧めします。

本章では、同一のバージョンのAssetCenterで、テスト用データベースを本番データベースに転送する方法を説明します。

以下の操作を行う必要があります。

- 1 本番データベースのコピーを作成する。このコピーをテスト用データベースとして使用します。
- 2 テスト用データベースを用いて、開発およびテストを実行する。
このテスト用データベースには、新しいデータが含まれます。新しいデータを分類し、本番データベースに転送します。
- 3 テスト用データベースからプロダクション用データベースにカスタマイズを伝達します

テスト用データベースからプロダクション用データベースにカスタマイズを伝達する代わりに、以下の方法もあります。

- 1 補足データとテスト用データベースの構造を出力する。
- 2 補足データとテスト用データベースの構造を本番データベースにインポートする。
- 3 Connect-Itを用いてテスト用データベースのデータ（レコード）を本番データベースに移行する。

本番データベースのコピーを作成する



警告:

本番データベースのコピーを作成する方法は、お使いのデータベースエンジンに応じて異なります。データベースエンジンの付属マニュアルを参照されるようお勧めします。

空のデータベースにコピーを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 SGBDで空のシェルを作成します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「DBMSで空のシェルを作成する」の節を参照してください。
- 2 DBMSログインを作成します。

▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「DBMSで空のシェルを作成する」または「DBMSログインを作成する」の節を参照してください。

3 空のシェルへの接続を作成します。

▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「AssetCenterで接続を作成する」の節を参照してください。

4 AssetCenter Database Administratorを起動します。

5 本番データベースに接続します（「ファイル／開く／既存のデータベースを開く」メニュー）。

6 本番データベースの内容をコピーします（「アクション／データベースを空のデータベースにコピー」メニュー）。

作成した空のシェルに対する接続を選択します。



注意:

この操作では、データベース全体（構造およびデータ）がコピーされます。

▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「DBMSを変更する」の節を参照してください。

テスト用データベースからプロダクション用データベースへのカスタマイズの伝達

プロダクション用データベースをカスタマイズするには2つの方法があります。

- データベースの構造を記述している「gbbase*.」ファイルを変更し、その変更をプロダクション用データベースにインポートする。
- 空のテスト用データベースを変更し、その変更をプロダクション用データベースに伝達する。

これらのカスタマイズは、テーブル、フィールド、リンク、画面、インデックスに関連します。

プロダクション用データベースにカスタマイズを伝達するには、AssetCenter Database Administratorを使います。

カスタマイズの伝達

プロダクション用データベースにカスタマイズを伝達するには:

- 1** プロダクション用データベースに接続します。
- 2** 「アクション／カスタマイズの統合」を選択します。
- 3** ウィザード画面に表示される指示に従います。

- 4 統合が終了したら、テスト用データベース（または「gbbase*.」ファイル）に対して行ったカスタマイズがプロダクション用データベースに正しく伝達されていることを確認します。

カスタマイズ伝達のロジック

テスト用データベースに対して行われたカスタマイズは、プロダクション用データベースに対する変更を上書きします。

プロダクション用データベースに対する変更を保持しながらテスト用データベースに対するカスタマイズを統合したい場合は、両方のデータベースの構造を出力し、それらを比較して、統合プログラムまたはConnect-Itシナリオを使って統合することをお勧めします。

データベース構造を出力する

AssetCenter Database Administratorを使用すると、テスト用データベースを出力できます。

データベースの構造を出力するには、以下の手順に従います。

- 1 データベース構造の出力先のフォルダを作成します。
- 2 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 3 本番データベースに接続します（[ファイル／開く／既存のデータベースを開く] メニュー）。
- 4 データベースの構造を出力します（[ファイル／データベース構造の出力] メニュー）。

データベースの構造を出力することは、以下のタイプのファイルを出力することに当たります。

- .bin
- .cfg
- .xml
- .dsd
- .str
- .stt
- .usr
- .wiz

新しいデータベース構造をインポートする



警告:

一旦インポートを実行すると、取り消すことはできません。テスト用データベースおよび本番データベースのバックアップコピーを、作成しておくようお勧めします。

テスト用データベースの構造を本番データベースにインポートすると、以下のことが可能になります。

- テスト用データベースの構造に基づいて、本番データベースを更新する。
- テスト用データベースの補足データに基づいて、本番データベースを更新する。

テスト用データベースの構造をインポートするには、以下の手順に従います。

- 1 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 2 本番データベースに接続します（[ファイル／開く／既存のデータベースを開く]メニュー）。
- 3 構造の更新を選択します([アクション／カスタマイズの統合])。
- 4 ウィザード画面に表示される指示に従います。

Connect-Itを使ってデータを移行する

移行するデータのタイプに対応するConnect-Itシナリオを起動します。この際、変更されたデータと元のデータを区別するために、WHERE句を含めます。

ソフトウェアカウンタに注意

[カウンタの作成] ウィザードで資格カウンタを作成する場合、AssetCenterは一部のレコードを主キーで識別するクエリを作成します。

カウンタのユーザ権限範囲（LicQuery）に関連するクエリの例:

```
(bDepartment = 0) AND (lEmplDeptId = 164)
```

テスト用データベースでカウンタを作成したあと、プロダクション用データベースに転送（エクスポートしてインポート）した場合、クエリ中の識別子はおそらく間違ったレコードを参照しています。

例えば、識別子「164」は、テスト用データベースでは「Mr. Doe」だが、プロダクション用データベースでは「Mrs Dour」かもしれません。

ソフトウェアカウンタとそのクエリをプロダクション用データベースにインポートしたあとは、カウンタに関連するクエリを確認する必要があります。

 ヒント:

もう1つの方法としては、クエリでレコードを識別する主キーとしてもっと安定したフィールドを使用します。例えば、名前やコードなどです。

複数のオペレータによって同時に行なわれたカスタマイズ

 警告:

ここで説明するプロセスを実行するには、以下の領域の詳細や知識に留意する必要があります。

- AssetCenter データベースの構造
- データの出力
- データのインポート
- データベース管理
- AssetCenterの管理

プロダクション用データベースのデータの整合性を保とうとする場合、時間のかかる困難な作業となる可能性もあります。

問題の説明

ここでは、AssetCenterデータベースをチームとしてカスタマイズする方法について説明します。

ファイルに保存したカスタマイズを共有できないため、これには制限があります。

このため、各開発者は以下の作業を行う必要があります。

- プロダクション用データベースのコピー（開発用データベースと呼びます）で作業を行います。
- 独自のカスタマイズは、自分のファイルに別個に保存します。

次に以下の操作を実行することができます。

- 1 個別のカスタマイズファイルをマージします。
- 2 マージしたカスタマイズをプロダクション用データベースに伝達します。

可能なカスタマイズの種類

AssetCenterデータベースは、さまざまなレベルでカスタマイズできます。

- データベースの構造パラメータ
- データベースのデータ

データベースのカスタマイズ可能な構造パラメータ

- テーブル（ラベル、説明など）
- フィールド（ラベル、説明、サイズなど）
- リンク（ラベル、説明、デフォルト値など）
- インデックス（ラベル、説明、フィールドリストなど）
- ページ（ラベル、説明、内容など）
- 画面（ラベル、説明、ボタンなど）
- フィールドとリンクのコンテキストヘルプ

注意:

これらのパラメータでスクリプトが使用されることがあります（フィールドの必須ステータスなど）。

データベースのカスタマイズ可能なデータ

- 任意管理項目および任意管理項目クラス
- 特殊フィールド
- リストデータ
- 単位
- 機能ドメイン
- アクション
- ワークフローチャート
- スクリプト
- クエリ
- レポート
- 書式
- ビュー
- ユーザ権限およびプロファイル、アクセス制限
- 機能権限
- データベースオプションおよびワンポイント
- 設定およびオプション
- ワークフローおよび配備サーバ

注意:

カスタマイズするデータは、ニーズに合わせて選択します。

選択を行ったら、AssetCenter ユーザがこのデータに対応するテーブルを許可なく変更できないようにします。

このためにはユーザプロファイルでユーザを判断します。

例えば、ワークフローにリンクされたテーブルを変更するのをやめ、リストデータの値の変更だけを続けることができます。

アクセス制限を使用すると、可能な設定の範囲を定義する際により明確な指定が行なえます。

必要に応じて、対象のテーブルの識別フィールドに接頭コードを使用すると（amWfScheme.Refなど）、設定で対象となるレコードの識別を簡単に行うことができます。

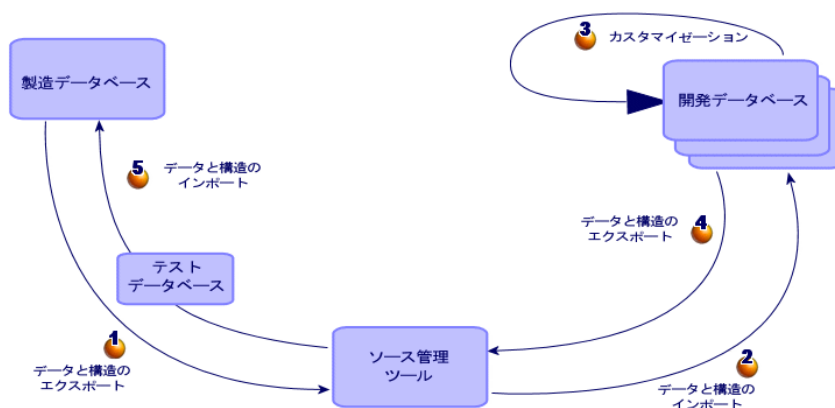
リストデータの場合、独立したリストを使用することも1つの簡単な解決方法です。

より柔軟な解決方法が必要な場合、独自に選択した基準に基づいてリストデータのアクセス制限を定義することができます。

推奨方法

グローバルプロセス

図 3.2. 複数のオペレータによるカスタマイズ - 単純なプロセス



AssetCenterをチームとしてカスタマイズするには:

- 1  プロダクション用データベースのデータと構造を出力する [修献3]
 - 1 プロダクション用データベースの構造を出力する [修献3]
 - 2 カスタマイズするデータをプロダクション用データベースから出力する [修献4]
 - 3 出力の結果をソースコントロールツールに保存する [修献7]
 - 4 テストデータの作成 [修献8]
-



注意:

この一連のステップは、プロジェクトを初めて実行するときに一度だけ実行します。

- 2  開発用データベースのデータと構造をインポートする [修献8]
 - 1 開発用コンピュータでソースコントロールからのファイルを同期する [修献8]
 - 2 ソースコントロールからのファイルを確認します。 [修献9]
 - 3 開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする [修献9]
-



注意:

これらのステップを初めに一度実行したら、あとは必要に応じて実行します。

- 3  開発用データベースをカスタマイズする [修献4]
 - 1 開発用データベースの構造をカスタマイズする [修献4]
 - 2 開発用データベースのデータをカスタマイズする [修献4]
- 4  開発用データベースのデータと構造を出力する [修献5]
 - 1 カスタマイズした開発用データベースのデータを出力する [修献5]
 - 2 開発用データベースからカスタマイズしたデータを出力する [修献5]
 - 3 ソースコントロールツールのファイルを更新する [修献5]
- 5  データと構造をプロダクション用データベースにインポートする [修献6]
 - 1 テスト用データベースを作成し、マージしたカスタマイズデータをインポートする [修献6]
 - 2 テスト用データベースをテストする [修献6]
 - 3 カスタマイズした構造をプロダクション用データベースに適用する [修献7]
 - 4 カスタマイズしたデータをプロダクション用データベースにインポートする [修献7]

🔥 プロダクション用データベースのデータと構造を出力する

プロダクション用データベースを直接変更しないので、データベースのデータと構造をテキストファイルの形式で出力する必要があります。

テキスト形式を使用すると、得られたファイルをリビジョンコントロール（またはソースコントロール）ツールで管理することができます。

出力中に得られたファイルによって、以下の操作が可能です。

- カスタマイズの前にプロダクション用データベースの構造をトラッキングする
- カスタマイズとカスタマイズのテストのための開発用データベースを作成する
- 開発用データベースのカスタマイズ後に生成されたファイルを元のファイルと比較する

プロダクション用データベースの構造を出力する

プロダクション用データベースの構造を出力するには:

- 1 出力の結果を保存するフォルダを作成します。
- 2 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 3 プロダクション用データベースに接続します（[ファイル／開く／既存のデータベースを開く] メニュー）。
- 4 データベースの構造を出力します（[ファイル／データベース構造の出力] メニュー）。

データベースの構造を出力すると、以下のファイルが作成されます。

- <接続名>.bin: 一時ユーザの定義（変更不可）
- lstpage_xx.cfg: ページの説明
- lstdet_xx.cfg: 画面の説明
- <接続名>.xml: データベースの構造
- <接続名>_xx.xml: データベースのディクショナリ
- dawkf1.dsd: 自動ワークフローの定義（変更不可）
- tips.str: ワンポイント
- <接続名>_xx.str: フィールドとリンクのコンテキストヘルプ
- <接続名>.wiz: ウィザードの機能ライブラリ

**注意:**

xx は、（使用可能な）AssetCenterの言語バージョンに対応します。

- en: 英語
- fr: フランス語
- de: ドイツ語
- it: イタリア語
- sp: スペイン語
- ja: 日本語

カスタマイズするデータをプロダクション用データベースから出力する

**注意:**

プロダクション用データベースにデータが入っていない場合でも、ここで、プロセス全体を通して用いるインポートスクリプトを作成します。

カスタマイズするデータを出力するには:

- 1 データベースからのデータを保持するフォルダを作成します。
- 2 AssetCenter Exportを起動します。
 - ▶ マニュアル『高度な使い方』の「データの出力とSQLビューの作成」の章
- 3 プロダクション用データベースに接続します。
- 4 [編集／オプション] メニューを選択します。
- 5 ブランチ [編集] を展開します。
- 6 [データベースオブジェクトの表示] をSQL名（説明）に設定します。
- 7 この設定を確定します（[OK] ボタン）。
- 8 新しい出力スクリプトを表示します（[ファイル／新規スクリプト] メニュー）。

 ヒント:

サンプルデータに含まれる「custom.scx」テンプレートを使用して出力スクリプトを作成することもできます。

このスクリプトはC:\Program Files\Peregrine\AssetCenter\datakit\customのサブフォルダにあります。

▶ 「custom.scx」スクリプトの使用に際しては「▶ 「custom.scx」スクリプトは「データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル [修繕8]」セクションの指示に従っています。

- 9 このスクリプトを選択した名前で保存します（[ファイル／スクリプトの保存] メニュー）。

 重要項目:

スクリプトに加えた変更を定期的に保存します。

- 10 出力する各データセットのクエリを追加します。通常、1テーブル当たりのデータセットは1つです（[新規] ボタン）。

考慮するテーブルのリスト: ▶ データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル [修繕8]

- 11 各クエリに対して以下を実行します。
 - 1 クエリに名前をつけます（[名前] フィールド）。

 ヒント:

クエリの名前として、出力したテーブルのSQL名を使用することをお勧めします。

例: amAction

- 2 出力したデータの保存に使用するファイルのフルパスを定義します（[ファイル] フィールド）。

 ヒント:

ファイル名として、出力したテーブルのSQL名を使用することをお勧めします。

例: amAction.txt

- 3 [クエリ] フィールドの横にある拡大鏡をクリックします。
- 4 左のリストから右のリストに以下の要素を追加します。
 - 以下を除くすべてのフィールド
 - [変更日] (dtLastModif)
 - 階層レベル (sLvl)

これらのフィールドは、 アイコンによって識別されます。

- すべての [メモ] フィールド

これらのフィールドにはリンクの一覧からアクセスできます。

フィールドは、 アイコンによって識別されます。

- 便利な1リンク (nリンクはなし)

これらは、 または  アイコンによって識別されます。

リンクに対して、関連識別キーを構成するフィールドを選択します（複数選択可）。

▶ データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル [修蔵8]

主キーを使用しないでください。

- 5 識別キー（1個の数字を持つ赤い矢印）を構成するフィールドの並べ替えを可能にします。



警告:

これは、出力したファイルをソースコントロールツールで管理しやすくするために必要です。

ファイルを適切に並べ替えないと、ソースコントロールアプリケーションが対象となるファイル間の違いを解析できません。



重要項目:

例外: テーブルに [完全名] フィールド (FullName) がある場合、[完全名] での並べ替えだけをオンにし、[表示] チェックボックスをクリアします。

[完全名] フィールドでの並べ替えを有効にすると、下位レコードの前に上位レコードをインポートすることができます。この方法を用いることで、必ず上位リンクが入力されるようになります。

[表示] チェックボックスのチェックをクリアすると、[完全名] フィールドがエクスポートされません。後で完全名フィールドをインポートできないおそれがあります。

このフィールドはインポート時に親／子リンクを元に自動生成されます。

- 6 [OK] をクリックして選択を確定します。
- 7 テーブルの認識キーを構成する各フィールドの後の [クエリ] フィールドに、[キー値] を追加します。

例

```
SELECT sX, sY, seType, Comment.memComment, WfTransition.Ref keyvalue,
WfScheme.Ref keyvalue FROM amWfSysActiv ORDER BY ISysActivId
```

この例では、[WfTransition.Ref] フィールドと [WfScheme.Ref] フィールドの後に [キー値] を追加しています。これらのフィールドが [amWfSysActiv] テーブルのレコードの識別キーを構成しているからです。

 注意:

AssetCenter Export 出力中に作成された特定ファイルに「keyvalue」フィールドの値を使用します。

- 8 [クエリ] フィールドで、画像に対するリンクがある場合（[画像] テーブル (amImage) ）、画像識別子を<リンク>.Nameと置き換えます。

例

```
SELECT Name, SQLName, Comment.memComment, WfActivity.Ref keyvalue,
WfEvent.Ref, IconId FROM amWfUserChoice ORDER BY IUserChoiceId
```

結果

```
SELECT Name, SQLName, Comment.memComment, WfActivity.Ref keyvalue,
WfEvent.Ref, Icon.Name FROM amWfUserChoice ORDER BY IUserChoiceId
```

この例では、IconId がIcon.Nameに置き換えられています。

- 12 [書式] タブを表示します。
- 13 [列タイトル] に値SQL名を入力します。
- 14 スクリプトを保存します（[ファイル／スクリプトの保存] メニュー）。
- 15 スクリプトを実行します（[アクション／スクリプトの実行] ）。
- 16 出力の結果を表示します。1クエリあたり1ファイルと、[メモ] フィールドと出力レコードあたり1ファイルが得られます。
出力の結果に一貫性があることを確認します。

出力の結果をソースコントロールツールに保存する

これにより、以下を実行することができます。

- 変更を加えるたびにデータベース構造とカスタマイズしたデータをトラッキングする。
必要に応じて前のステータスに戻り、異なるバージョンを比較することができます。
- 別の人の変更したファイルをマージする

 注意:

異なるファイルバージョンのマージは、ソースコントロールツールの基本機能の1つです。

出力プロセス中に取得したファイルをソースコントロールツールに追加します。

 重要項目:

これ以降、データベース構造に変更を加えるときや、データベースをカスタマイズするときには、これらのファイルを出発点として使用する必要があります。

出力の結果をソースコントロールツールに保存するには:

使用するソースコントロールツールのマニュアルを参照してください。

テストデータの作成

カスタマイズの際、開発用データベースの処理にテストデータを使用する必要がありますものの、それをソースコントロールに保存するのは不便な場合があります。例えば、アクションを作成するとき、作成者をアクションと関連付ける必要があります。作成者は[従業員] テーブル (amEmplDept) から選択します。このため、開発用データベースに従業員レコードが必要となります。しかしこれらの従業員レコードは、カスタマイズの必要がありません。こうした理由から、従業員はソースコントロールに保存されません。

以下からテストデータセットを作成することをお勧めします。

- プロダクション用データベースからのデータ:
 - ターゲットテーブルのレコード (例えば [従業員]) およびカスタマイズするテーブル (例えば [アクション]) のリンク (例えば [作成者])
 - テストに必要なテーブルのすべてのレコードまたは選択したレコード
- その他のデータ (必要な場合)

開発用データベースのデータと構造をインポートする

開発用コンピュータでソースコントロールからのファイルを同期する

開発者は、各自のコンピュータでデータベースをカスタマイズする前に、データがソースコントロールのデータと同期しているデータベースを作成する必要があります。

開発用コンピュータでソースコントロールからのファイルを同期するには:

- 1 ソースコントロールツールをインストールして、設定を行ないます。
- 2 開発用コンピュータでデータベースの構造ファイルを同期します。

ソースコントロールからのファイルを確認します。

各開発者は、変更しようとすることを識別し、対応するファイルを確認する必要があります。

ソースコントロールからのファイルを確認するには:

使用するソースコントロールツールのマニュアルを参照してください。

開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする

各開発者がデータベースを独立してカスタマイズできるように、それぞれの開発者に対して開発用データベースを作成します。

開発用データベースを作成するには:

- 1 SGBDで空のシェルを作成します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「DBMSで空のシェルを作成する」の節を参照してください。
- 2 DBMSログインを作成します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「DBMSで空のシェルを作成する」または「DBMSログインを作成する」の節を参照してください。
- 3 空のシェルへの接続を作成します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章、「AssetCenterで接続を作成する」の節を参照してください。
- 4 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 5 開発用コンピュータのソースコントロールから同期した<接続名>.xmlファイルを開きます（[ファイル／開く] メニュー、[データベース記述ファイルを開く（新規データベースの作成）] オプション）。
このファイルは、ステッププロダクション用データベースの構造を出力する[修飾3]で取得します。
- 6 データベース作成ウィザードを起動します（[アクション／データベースの作成]）。
- 7 ウィザードのページに次のように入力します（ウィザードページを移動するには、[次へ] または [前へ] ボタンを使用します）。
[SQLスクリプトの生成／データベースの作成] ページ：

フィールド	値
データベース	AssetCenterで作成した空のシェルへの接続を選択します。

フィールド	値
作成	データベースの作成
高度な作成オプションの使用	テーブル、インデックス、LOBのテーブルスペースを定義するにはこのオプションを選択します。

[作成オプション] ページ：



注意:

DBMSを使用してあらかじめテーブルスペースを作成しておく必要があります。

[作成パラメータ] ページ：

フィールド	値
パスワード	管理者ログインに関連付けるパスワード。 注意: AssetCenterデータベース管理者は、[部署と従業員] (amEmplDept) テーブルに記録され、その[名前] (Name) フィールドはAdminになります。 データベース接続ログインは[ユーザ名] (UserLogin) フィールドに格納され、管理名はAdminになります。
パスワードの確認	[パスワード] フィールドに入力した値を確認します。
ライセンスファイル	AssetCenterに付属のライセンスファイル「license.cfg」を選択します。

[システムデータの作成] ページ：

フィールド	値
タイムゾーンの使用	このオプションを選択すると、データベースサーバ、日付フィールド、AssetCenter クライアントのタイムゾーンの時間差を管理できます。 ▶ マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「タイムゾーン」の章。

フィールド	値
サーバ	AssetCenterデータベースサーバのタイムゾーンを選択します。 この場合は、例えば、サーバのWindowsコントロールパネルで定義されたタイムゾーンになります。
データ	データベースに保存された日付を表示するタイムゾーンを選択します。
フィールドのヘルプの使用	このオプションを選択すると、データベースフィールドとリンクに関する情報が挿入されます。
AutoCAD統合の使用	AssetCenterでAutoCAD統合機能を使用する場合は、このオプションを選択します。 ▶ マニュアル『管理』の「AutoCADの統合」の章。

[インポートするデータ] ページ：

フィールド	値
使用可能なデータ	どのデータも選択しないでください。
エラー発生時にインポートを中止	このオプションは選択しないでください。
ログファイル	このフィールドには入力しないでください。

8 ウィザードを使用して定義したオプションを実行します（[完了] ボタン）。

開発用データベースにカスタマイズするデータをインポートするには:

- 1 AssetCenterを起動します。
- 2 開発用データベースに接続します。
- 3 インポート機能を開始します（[ファイル／インポート]、[データベースのインポート] ボタン、[テキスト] タブ、[開く] ボタン）。
- 4 [編集／オプション] メニューを選択します。
- 5 オプション [Do not import empty fields from the source database（ソースデータベースから空のフィールドをインポートしない）] をクリアします。
- 6 この設定を確定します（[OK] ボタン）。
- 7 選択した名前を使用してブランクのインポートスクリプトを保存します（[ファイル／保存] メニュー）。

 重要項目:

スクリプトに加えた変更を定期的に保存します。

 ヒント:

サンプルデータに含まれる「custom.scx」テンプレートを使用して出力スクリプトを作成することもできます(ファイル/ スクリプトを開く)。

このスクリプトはC:\Program Files\Peregrine\AssetCenter\datakit\customのサブフォルダにあります。

▶ 「custom.scr」スクリプトの使用に際しては「**データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル** [修繕8]」セクションに記載された指示をよくお読みください。

- 8 出力したデータファイルをインポートするようにスクリプトを設定します。
 - ▶ マニュアル『管理』の「インポート」の章。
- 9 インポートする各ファイル（各ファイルの出力に対して1つ;▶**データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル** [修繕8]）に対して以下を実行します。
 - 1 ファイルを追加します（[ファイル／追加]）。
 - 2 ウィザードによって表示されるページ（特に以下のページ）に入力します。
 - ページ1: オプション [最初の項目に列名を含める] と [区切り文字] を選択します。
 - ページ2: オプション [タブ] を選択します。
 - ページ3: [日付] または [日付と時刻] データを含む列を選択し、[タイプ] フィールドに入力します。
 - 3 ターゲットテーブル、インポートしたファイルに一致するメインテーブルを選択します。
 - 4 ファイルをテーブルにマッピングします（[編集／マッピング]）。
 - 5 マッピング（ファイル、ターゲットテーブル）を選択します。
 - 6 ファイルの列をターゲットテーブルのフィールドにマッピングします（[編集／プロパティ] メニュー）。

 ヒント:

 ボタンを使用して、SQL名に基づきフィールドを自動的にマッピングすることをお勧めします。

特定のフィールドに対しては、[ファイル] タイプの計算式を作成し、そのフィールドではなく、ターゲットフィールドにマッピングする必要があります。

これは、特に以下のフィールドにあてはまります。

- [メモ] フィールド
- [データ] フィールド (blbData)
- [スクリプト] フィールド (memScript)
- [機能権限] テーブルの [定義] フィールド
- [ワークフローイベント] テーブル (amWfEvent) の [期間] フィールド

 ボタンを使用すると、式が自動的に作成され、適切なフィールドに関連付けられます。

これらの式のいずれかの詳細を見るには、以下を表示します。

- [フィールドのタイプ] フィールド: [ファイル]
- 「メインフィールド」フィールド: メモを保存しているファイル名を示した、出力したファイルの列名

[期間] フィールド(timespanの場合、SQL名がtsで開始します)の場合、次の任意管理項目を持つ公式も作成する必要があります。

- フィールドタイプ: スクリプト
 - スクリプト:RetVal=[<フィールドのSQL名>] & "s"
- 例:RetVal=[tsDelay] & "s"

作成した特殊フィールドを、(デフォルト設定のソースフィールドではなく)ターゲットフィールドに関連付けます。

- 7 テーブルデータベースのカスタマイズ-考慮するテーブル[[修職8](#)]に推奨されたキーをメインテーブルおよびリンクされたテーブルの識別キーとして定義します。

警告:

 ボタンによって適切なキーが自動的に選択されることはありません。それらを系統的に検証する必要があります。

- 10 スクリプトを保存します ([ファイル/保存] メニュー)。
- 11 重要な設定を検証します ([編集/オプション] メニュー)。
- 12 スクリプトを実行します ([インポータ] ボタン)。
- 13 インポートの結果に一貫性があることを確認します。

重要項目:

ワークフローチャート以外のテーブルには、これらの手順で十分です。ワークフローチャートの場合は、スクリプトが正しく動作するよう、徹底したスクリプトのテストを行なう必要があります。

開発用データベースにテストデータをインポートするには:

カスタマイズするデータをインポートする場合と同じ方法で新しいインポートスクリプトを作成します。

3 開発用データベースをカスタマイズする

開発用データベースの構造をカスタマイズする

データベースの構造を複数の開発者が同時に変更することができます。

個々の開発者が開発用データベースの構造をカスタマイズするには:

- 1 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 2 開発用データベースのインスタンスに接続します（[ファイル／開く／既存のデータベースを開く] メニュー）。
- 3 データベースの構造を変更します。
- 4 変更を保存します（[ファイル／保存] メニュー）。

開発用データベースのデータをカスタマイズする

データベースのデータを複数の開発者が同時に変更することができます。

開発用データベースのデータをカスタマイズするには:

- 1 AssetCenterを起動します。
- 2 開発用データベースに接続します（[ファイル／開く／既存のデータベースを開く] メニュー）。
- 3 開発用データベースのデータを変更します。

ヒント:

レコードを作成または変更した開発者を識別できるように、テーブルデータベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル [修融8]に推奨されたキーを入力します。

例えば各識別子を、それぞれの開発者の接頭コードで始めることができます。

 ヒント:

テストを実行する際、一時レコードの作成が必要となる場合があります。

これらの一時レコードは忘れずに削除してください。

レコードの数が多くなり過ぎた場合は、別のテストおよび開発用データベースの作成が必要です。

開発用データベースのデータと構造を出力する

カスタマイズした開発用データベースのデータを出力する

この操作は、カスタマイズした開発用データベースごとに行なう必要があります。

開発用データベースの構造を出力するには:

- 1 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 2 開発用データベースに接続します（[ファイル／開く／既存のデータベースを開く] メニュー）。
- 3 構造ファイルを同期した場所にデータベース構造を出力します（[ファイル／データベース構造の出力]）。

開発用データベースからカスタマイズしたデータを出力する

開発用データベースのデータを出力するには:

- 1 AssetCenter Exportを起動します。
- 2 開発用データベースのインスタンスに接続します。
- 3 出力するデータに対応する各スクリプトに対して、以下を実行します。
 - 1 スクリプトを開きます（[ファイル／スクリプトを開く]）。
 - 2 スクリプトを実行します（[アクション／スクリプトの実行]）。

▶ カスタマイズするデータをプロダクション用データベースから出力する
[[参考文献4](#)]

ソースコントロールツールのファイルを更新する

開発者は、変更を終了したら、出力したファイルをソースコントロールに戻します。

開発者がファイルを処理しているあいだに、別のユーザがソースコントロールの中央に保存しているファイルを更新した場合、他のユーザによる変更を上書きしないよう、ファイルを戻す前に変更をマージする必要があります。

ソースコントロールツールは、後続バージョン間で行なわれた変更を強調表示するdiff and mergeツールといっしょに使用することができます。

データと構造をプロダクション用データベースにインポートする

テスト用データベースを作成し、マージしたカスタマイズデータをインポートする

すべての開発者が自分の開発用データベースをカスタマイズし、結果をソースコントロールに戻したら、テスト用データベースで新しい構造の実用性とカスタマイズデータのインポートを検証する必要があります。

最新の構造を持つテスト用データベースを作成するには:

ステップ開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする [修献9]と同じ手順に従います。

カスタマイズしたデータをテスト用データベースにインポートするには:

ステップ開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする [修献9]と同じ手順に従います。

テストデータをテスト用データベースにインポートするには:

ステップ開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする [修献9]と同じ手順に従います。

テスト用データベースをテストする

データベースの構造が、開発用データベースで行なったカスタマイズと一致することを確認します。

また、開発用データベースでカスタマイズしたオブジェクトを1つまたは複数テストします。

例えばアクションの場合、1~2つのアクションを実行して正しく機能するかをチェックします。

カスタマイズした構造をプロダクション用データベースに適用する

テスト用データベースでのテストに合格したら、プロダクション用データベースを更新することができます。

カスタマイズした構造をプロダクション用データベースに適用するには:

- 1 ソースコントロールツールを起動します。
- 2 構造ファイルとデータを含むフォルダを同期します。
- 3 AssetCenter Database Administratorを起動します。
- 4 プロダクション用データベースを開きます。
- 5 [アクション／カスタマイズの統合] を選択します。
- 6 [データベース記述ファイルから統合] オプションを選択します。
- 7 作業フォルダ: 選択した一時フォルダ
- 8 ソースファイル: 同期した構造ファイル<データベース名>.xmlのフルパス（ファイル<データベース名>_xx.xmlを選択しないでください）
- 9 [統合] をクリックします
- 10 統合を実行したら、プロダクション用データベースでカスタマイズが正しく行われたかを確認します。

カスタマイズしたデータをプロダクション用データベースにインポートする

カスタマイズしたデータをテスト用データベースにインポートするには:

ステップ開発用データベースを作成し、カスタマイズするデータとテストデータをインポートする [惨献9]と同じ手順に従います。

参照: カスタマイズ可能なテーブル

次に、カスタマイズ可能なオブジェクトの一覧を示します。

これらのオブジェクトのそれぞれに対して、関連テーブルが示されます。

これらの各テーブルの推奨識別キーは、便利な1リンクとして指定されます（メモリンクと画像リンクは指定されません）。

 ヒント:

インポートでは、テーブルの順序が重要となります。インポートした特定のレコードが、すでに存在するはずの別のテーブルのレコードを参照するからです。以下に示すテーブルの順序は、テーブル間の依存状態に従っている必要があります。

表 3.3. データベースのカスタマイズ - 考慮するテーブル

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
画像		
画像 (amImage)	名前 (Name)	
特殊フィールド		
特殊フィールド (amCalcField)	SQL名 (SQLName) + テーブル (TableName)	
スクリプト		
スクリプト (amScriptLibrary)	SQL名 (SQLName)	
単位		
単位 (amUnit)	シンボル (Symbol)	
配備		
配備ワークフロー (amDaWfScheme)	参照 (Ref)	
配備サーバ (amDaServer)	名前 (Name)	コンピュータ.資産タグ (Computer.AssetTag)
機能ドメイン		
機能ドメイン (amFuncDomain)	SQL名 (SQLName)	親ドメイン(Parent.Code)
クエリ		
クエリ (amQuery)	SQL名 (SQLName)	作成者.IDNo (Author.IDNo) ドメイン.SQL名 (Domain.SQLName)
ビュー		
ビュー (amViewDef)	SQL名 (SQLName)	作成者.IDNo (Author.IDNo) ドメイン.SQL名 (Domain.SQLName)
アプリケーションのオプション		
アプリケーションのオプション (amOption)	■ セクション(OptSection)	従業員.ID番号 (EmplDept.IDNo)
	■ エントリ(OptEntry)	

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
設定およびオプション		
設定およびオプション (amSysConfig)	■ エントリ(CfgEntry) ■ セクション(CfgSection) ■ 従業員(EmplDept.IDNo)	従業員.ID番号 (EmplDept.IDNo)
レポート		
レポート (amReport)	SQL名 (SQLName)	作成者.IDNo (Author.IDNo) ドメイン.SQL名 (Domain.SQLName)
形式		
内部形式 (amForm)	SQL名 (SQLName)	作成者.IDNo (Author.IDNo) ドメイン.SQL名 (Domain.SQLName)
リストデータ		
リストデータ (amItemizedList)	識別子 (Identifier)	
リストデータ値 (amItemListVal)	■ 値(Value) ■ リストデータ.識別子 (ItemizedList.Identifier)	リストデータ.識別子 (ItemizedList.Identifier)
任意管理項目		
任意管理項目クラス (amFeatureClass)	コード (Code)	親クラス(Parent.Code)
任意管理項目 (amFeature)	SQL名 (SQLName)	クラス.コード (FeatureClass.Code) リストデータ.識別子 (ItemizedList.Identifier) 単位.シンボル (Unit.Symbol)

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
任意管理項目 (amFeature)	SQL名 (SQLName) とソース任意管理項目.SQL名 (SrcFeatures.SQLName) だけを使ってレコードの2度目の出力を行ないます。	
	注意: この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中に統合する任意管理項目と統合される任意管理項目との間にリンクを作成することができます。 これを実現できるのは、これらの任意管理項目がすべて存在している場合だけです。 この条件は、最初のファイルをインポートすることにより保証されます。 AssetCenter Export 1 リンクあたり 1 行を生成します。	
任意管理項目パラメータ (amFeatParam)	■ テーブル(TableName) ■ 任意管理項目.SQL名 (Feature.SQLName)	このパラメータのヘルプ,説明 (ShortHelp.Comment) このパラメータのヘルプ,例 (ShortHelp.Example) このパラメータのヘルプ,注 (ShortHelp.Warning) 任意管理項目.SQL名 (Feature.SQLName)
アクション		
アクション (amAction)	SQL名 (SQLName)	作成者.IDNo (Author.IDNo) 配備サーバ.名前 (DaServer.Name) 配備ワークフロー.参照 (DaWfScheme.Ref) ドメイン.SQL名 (Domain.SQLName) 実行するアクション.SQL名 (ExecAction.SQLName) 形式.SQL名 (Form.SQLName) レポート.SQL名 (Report.SQLName)
ユーザプロファイル		
ユーザプロファイル (amProfile)	SQL名 (SQLName)	デフォルトアクション.SQL名 (DefLoginAction.SQLName)
ユーザ権限 (amUserRight)	SQL名 (SQLName)	

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
アクセス制限 (amAccessRestr)	SQL名 (SQLName)	
機能権限 (amFuncRight)	SQL名 (SQLName)	
ユーザ権限 (amUserRight)	SQL名 (SQLName) と プロファイル.SQL名 (Profiles.SQLName) だけを使ってレコードの2度目の出力を行ないます。	
注意: この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中にユーザプロファイルとユーザ権限との間にリンクを作成することができます。 AssetCenter Export 1リンクあたり1行を生成します。		
アクセス制限 (amAccessRestr)	SQL名 (SQLName) と プロファイル.SQL名 (Profiles.SQLName) だけを使ってレコードの2度目の出力を行ないます。	
注意: この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中にユーザプロファイルとアクセス制限との間にリンクを作成することができます。 AssetCenter Export 1リンクあたり1行を生成します。		
機能権限 (amFuncRight)	SQL名 (SQLName) と プロファイル.SQL名 (Profiles.SQLName) だけを使ってレコードの2度目の出力を行ないます。	
注意: この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中にユーザプロファイルと機能権限との間にリンクを作成することができます。 AssetCenter Export 1リンクあたり1行を生成します。		
ワークフローチャート		
従業員グループ (amEmplGroup)	バーコード (BarCode)	管理者.ID番号 (Supervisor.IDNo)
		バーコードのサブグループ (Parent.BarCode)

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
従業員グループ (amEmplGroup)	バーコード (BarCode) とメンバ.ID番号 (Members.IDNo) だけを使ってレコードの2度目の出力 を行ないます。 注意: この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中に ワークフローグループとメンバとの間にリンクを作成す ることができます。 AssetCenter Export グループとメンバ間で1行ずつエク スポートします。	
ワークフローロール (amWfOrgRole)	参照 (Ref)	指定代理人.ID番号 (Assignee.IDNo) グループ.バーコード (EmplGroup.BarCode)
ワークフローチャート (amWfScheme)	参照 (Ref)	責任者.ID番号 (Supervisor)
システムアクティビティ (amWfSysActiv)	- ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref) - タイプ(seType)	ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref)
ワークフローアクティビ ティ (amWfActivity)	- ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref) - 参照 (Ref)	指定代理人.参照 (Assignee.Ref) カレンダー.SQL名 (Calendar.SQLName) アクション.SQL名 (NotifAssignAct.SQLName) モデル.参照 (Template.Ref) モデル.ワークフロー.参照 (Template.WfScheme.Ref) ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref) ウィザード.SQL名 (Wizard.SQLName)

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
ユーザ選択 (amWfUserChoice)	■ SQL名 (SQLName) ■ アクティビティ.参照 (WfActivity.Ref) ■ アクティビティ.ワークフロー.参照 (WfActivity.WfScheme.Ref)	アクティビティ.参照 (WfActivity.Ref) アクティビティ.ワークフロー.参照 (WfActivity.WfScheme.Ref)
ワークフローイベント (amWfEvent)	■ ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref) ■ ソースアクティビティ.参照 (SrcActivity.Ref) ■ 参照 (Ref)	ソースアクティビティ.参照 (SrcActivity.Ref) ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref)
ワークフロートランジション (amWfTransition)	■ 参照 (Ref) ■ ソースイベント.参照 (SrcEvent.Ref) ■ ソースイベント.ソースアクティビティ.参照 (SrcEvent.SrcActivity.Ref) ■ ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref)	ソースイベント.参照 (SrcEvent.Ref) ソースイベント.ソースアクティビティ.参照 (SrcEvent.SrcActivity.Ref) ターゲットアクティビティ.参照 (TargetActiv.Ref) ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref)
システムアクティビティ (amWfSysActiv)	■ ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref) ■ トランジション.参照 (WfTransition.Ref) ■ トランジション.ソースイベント.参照 (WfTransition.SrcEvent.Ref) ■ トランジション.ソースイベント.ソースアクティビティ.参照 (WfTransition.SrcEvent.SrcActivity.Ref)	トランジション.参照 (WfTransition.Ref) トランジション.ソースイベント.参照 (WfTransition.SrcEvent.Ref) トランジション.ソースイベント.ソースアクティビティ.参照 (WfTransition.SrcEvent.SrcActivity.Ref) ワークフロー.参照 (WfScheme.Ref)

注意:

この2番目のファイルでは、WHERE句を追加してENDアクティビティを抽出します(seType = 1)。

テーブル	推奨キー	便利な1リンク
ワークフローアクティビティ (amWfActivity)	ワークフロー.Reference (WfScheme.Ref)、参照 (Ref) とアクション.SQL名(Actions.SQL name)だけを使ってレコードの2度目の出力を行ないます。	
注意: この2番目のインポートにより、インポートフェーズ中にワークフローグループとアクションとの間にリンクを作成することができます。 AssetCenter Export 1 リンクあたり 1 行を生成します。		
ワークフローアラーム (amWfActivAlarm)	■ 参照 (Ref) ■ アクティビティ.参照 (WfActivity.Ref)	アクション.SQL名 (Action.SQLName) アクティビティ.参照 (WfActivity.Ref) アクティビティ.ワークフロー.参照 (WfActivity.WfScheme.Ref)
カレンダー		
タイムゾーン (amTimeZone)	コード (Code)	
営業日のカレンダー (amWorkCalendar)	SQL名 (SQLName)	タイムゾーン.コード (TimeZone.Code)
通貨		
通貨 (amCurrency)	名前 (Name)	
為替レート (amCurRate)	■ ソース通貨.名前 (SrcCurrency.Name) ■ ターゲット通貨.名前 (TargetCurrency.Name) レートの日付(dtStart)	ソース通貨.名前 (SrcCurrency.Name) ターゲット通貨.名前 (TargetCurrency.Name)

コメント: 識別キーの選択

識別キーの選択には以下の注意が必要です。

- 主キーを識別キーとして使用することはできません。事実上、各開発者は自分の開発用データベースに固有の主キーを生成します。ただし、これらの識別子は、いったんプロダクション用データベースにインポートすると別のものになります（主識別子をインポートすることはできません。AssetCenterが、インポートプロセス中に自動的に主識別子を生成します）。
- 将来、プロダクション用データベースをカスタマイズし直したときに、レコードを更新するための識別キーが必要です。

例

- 1 カスタマイズの最初の一巡で、開発者は開発用データベースに新規アクションA1を作成します。
このアクションの主キーは、PK1とそのSQL名SQL1です。
- 2 プロダクション用データベースにインポートすると、アクションA1の主キーは自動的に変化します（PK2）。ただし、そのSQL名は変わりません（SQL1）。
- 3 カスタマイズの後続の一巡で、開発者は開発用データベースのアクションA1を変更します。
このアクションの主キーはPK1で、そのSQL名はSQL1です。
- 4 プロダクション用データベースにインポートすると、アクションA1がSQL名（SQL1）によってプロダクション用データベースで識別されます。SQL名は識別キーとして使用されます。アクションA1を記述するレコードが更新されます。



4 データベースオプション

一部のオプションはデータベースにのみ関連します。
オプションは、データベースへ接続する全クライアントコンピュータに共通しています。
本章ではオプションの内容と設定方法を説明します。

データベースオプションを設定する

1 AssetCenterを起動します。

2  **警告:**

Adminユーザと [管理者権限] オプションが選択されているユーザのみが、データベースオプション設定へアクセスできます。

データベースに接続します（ [ファイル／データベースに接続] メニュー）。

3 データベースオプションのリストを表示します（ [管理／データベースオプション] メニュー）。

4 変更するオプションを選択します。

5 以下のいずれかの方法を使用して続行します。

- [現在の値] 列内のオプションの値をダブルクリックします。
- [Shift] と [スペースバー] を同時に押します。

6 値を変更するには以下の方法があります。

- 値がリストの一部である場合は、値をリストから選択します。
- 1行分の値を自由に入力できる場合は、[現在の値] 列に値を入力します。
- 複数行の値を自由に入力できる場合は、オプションウィンドウに下部に表示される編集ゾーンを使って値を記入します。

 ヒント:

このウィンドウが表示されない場合は、オプションウィンドウの下枠部分にマウスポインタを置き、画面分割用ポインタが表示されたらポインタを上部へドラッグします。

7 オプションを確定します（[OK] ボタン）。

8 AssetCenterクライアントで新規オプションが有効になるよう、ユーザにデータベースへ接続してもらいます。

データベースオプションの設定ウィンドウ

 注意:

黒で表示される値は編集不可能です。

青で表示される値は編集可能です。

[デフォルト値] 列では、オプションの標準値を必要に応じて確認できます。

表 4.1. データベースオプション - 使用可能なオプション

セクション	オプション名	説明	値の例
調達	AssetCenter Serverで受領品をポートフォリオに自動的に作成	■ はい：発注された品目を受領すると、[受領]（SQL名：amReceipt）テーブルにレコードが作成されます。 ただし、受領品は他のテーブル（資産、コンピュータ、ポートフォリオ品目のテーブルなど）には作成されません。 一時レコードは[受領品]（SQL名：amItemsReceived）テーブルに作成され、AssetCenter Serverの[受領品に対応する資産、消耗品などの作成]モジュールにより処理されます。AssetCenter Serverが最終的なテーブルにレコードを作成します。 この機能の利点：AssetCenterではなくAssetCenter Serverを使ってこのタスクを実行することにより、注文品の受領を行うクライアントのパフォーマンスの向上を図ることができます。 ■ いいえ：発注された品目を受領すると、[受領]（SQL名：amReceipt）テーブルにレコードが作成されます。 受領品に対応するレコードは他のテーブル（資産、コンピュータ、ポートフォリオ品目のテーブルなど）にも即時に作成されます。	はい

セクション	オプション名	説明	値の例
調達	受領時に消耗品の経費明細を作成	■ はい：消耗品が受領されると経費明細が作成されます。これは消耗品の購入に対応します。 消耗品の消費時（消耗品が親資産に割り当てられる時）には、追加の経費明細は作成されません。 この「消費」も考慮に入れた上で経費明細を作成する必要がある場合は、経費付替え規則を作成しなければなりません。 ■ いいえ：消耗品を受領後に作成しても、経費明細は作成されません。 消耗品の消費時（消耗品が親資産に割り当てられる時）に、経費明細が作成されます。	はい
インポート	インポート中の履歴を無効にする	■ はい：データのインポートにより発生した変更事項に関するレコードは、[履歴]（SQL名：amHistory）テーブルには作成されません。 ■ いいえ：データのインポートにより発生した変更事項が、履歴を保持するフィールドまたはリンクに関する場合、1レコードが、[履歴]（SQL名：amHistory）テーブルに作成されます。	はい
ウィザード	Basic関数	このオプションは、ウィザードタイプのアクションで呼び出されるBASIC関数を含んでいます。	
ワンポイント	ワンポイントのテキスト	AssetCenterの起動時に表示されるワンポイント「ご存知でしたか？」のリスト。	ヒント2： [Shift+F9] キーを押すと、ウィザードデバッグが起動されます。

セクション	オプション名	説明	値の例
LDAP認証	認証にLDAPサーバを使用する	■ はい：データベースへの接続時に入力されるパスワードは、外部LDAPディレクトリ内で検索されます。 ■ いいえ：データベースへの接続時に入力されるパスワードは、[部署と従業員]（SQL名：amEmplDept）テーブルの[パスワード]（SQL名：LoginPassword）フィールド内で検索されます。	はい
LDAP認証	匿名LDAP接続を許可する(パスワードなしの空のログイン)	■ [はい]：匿名LDAP接続が許可されます。 ■ [いいえ]：匿名LDAP接続は無効に設定され、LDAPサーバがログインとパスワードの有効性をチェックします。 このオプションは、[認証にLDAPサーバを使用する] オプションが「はい」の場合にのみ使用されます。	空
LDAP認証	LDAPサーバへのセキュア接続（SSL）を使用します。	■ [はい]：LDAP証明書ディレクトリ（LDAPCertDirまたはLDAPCertfile）経由で認証を行います。 ■ [いいえ]：データベースへの接続時に入力したパスワードを外部LDAPディレクトリで検索します。 このオプションは、[認証にLDAPサーバを使用する] オプションが「はい」の場合にのみ使用されます。	はい
LDAP認証	LDAPサーバ名	AssetCenterユーザのログインとパスワードを保存するディレクトリを表示するサーバ名 このオプションは、[認証にLDAPサーバを使用する] オプションが「はい」の場合にのみ使用されます。	ServerLdap

セクション	オプション名	説明	値の例
LDAP認証	LDAPサーバポート	ディレクトリに関係するデータの要求をリッスンするLDAPサーバのポート このオプションは、[認証にLDAPサーバを使用する] オプションが「はい」の場合にのみ使用されます。	389
LDAP認証	LDAPディレクトリのログインを格納する [amEmplDept] テーブルのフィールドのSQL名	このオプションはデフォルトで、AssetCenterデータベースとLDAPディレクトリで同じログインを使用するものと仮定しています。このログインは、[部署と従業員] (SQL名: amEmplDept) テーブルの [ログイン] (SQL名: UserLogin) フィールドに格納されています。 AssetCenterデータベースとLDAPディレクトリのログインを別のものにすることも可能です。この場合は、LDAPディレクトリのログインを格納するフィールドを選択し、このフィールドのSQL名をオプションで指定する必要があります。 このオプションは、[認証にLDAPサーバを使用する] オプションが「はい」の場合にのみ使用されます。	Field1
認証	ライセンスファイル	AssetCenterデータベースに挿入したライセンスファイル ([ツール/ファイセンスファイルの編集])。 このオプションを現ウィンドウで変更することはできません。	
認証	AssetCenter Server署名	AssetCenter Serverが定期的にデータベースに接続していることを確認するために、AssetCenterにより使用されます。 このオプションを現ウィンドウで変更することはできません。	AssetCenter Serverにより更新されます。

セクション	オプション名	説明	値の例
認証	Remote Controlサーバ署名	Remote Controlサーバが定期的にデータベースに接続していることを確認するために、Remote ControlのServer Administration Consoleにより使用されます。 このオプションを現ウィンドウで変更することはできません。	Remote Control Serverにより更新されます。
任意管理項目	統合された任意管理項目の再計算を無効にする	- はい：統合された任意管理項目の値が変更する際に、値は再計算されません。 - いいえ：統合された任意管理項目の値が1つでも変更すると、値は再計算されます。	はい
AssetCenterデータベースへのアクセスの制御	スロットの更新間隔 (分)	クライアントがログインスロットを更新する間隔	10
アクセスコントロール	自動切断を有効にする	非活動時にデータベースからクライアントを自動的に切断します。	はい
アクセスコントロール	スロットの自動タイムアウト (秒)	AssetCenterが自動的にデータベースから切断する際のタイムアウト時間 このオプションは、「自動切断を有効にする」オプションが「はい」の場合にのみ使用されます。	1800
文書	データベースに挿入可能な文書の最大サイズ (バイト)	「文書」(SQL名: amDocument) テーブルに挿入されるファイルの最大サイズです。	5 242 880
システムデータ	ビルド	データベース内にインポートされるシステムデータのビルド番号 システムデータは、データベースの作成時に自動的にデータベース内にインポートされます。 このオプションを現ウィンドウで変更することはできません。	
タイムゾーン	データ：基準となるGMTタイムゾーンとの時間差 (時間)	データベース内のデータのタイムゾーン。GMTとの時差を指定します。 値を指定しないとタイムゾーンを使わないことになります。 「0」を指定するとGMTと同じタイムゾーンになります。	-2 (GMTのタイムゾーン - 2)

セクション	オプション名	説明	値の例
タイムゾーン	サーバ：基準となるGMTタイムゾーンとの時間差（時間）	サーバのタイムゾーン。GMTとの差を入力します。 値を指定しないとタイムゾーンを使わないことになります。 「0」を指定するとGMTと同じタイムゾーンになります。	4（GMTのタイムゾーン+4）
イベント管理	出力イベントの有効時間（時間）	出力イベントは、外部アプリケーションにエクスポートするデータを受け取る待ち行列（キュー）です。期限はイベントの解除のために待つ時間の値を指定します。	336
イベント管理	入力イベントの有効時間（時間）	入力イベントは、外部アプリケーションからインポートするデータを受け取る待ち行列（キュー）です。期限は、イベントの解除のために待つ時間の値を指定します。	336
リース	資産リース料率の自動計算の承認	■ はい：資産の [料率]（SQL名：pLRF）フィールドは、他の使用可能な値に応じて自動的にAssetCenterによって計算されます。 ■ いいえ：資産の [料率]（SQL名：pLRF）フィールドは、自動的に計算されません。このフィールド値は、この値に依存する他の値の計算に使用されます。	はい
パスワード	パスワードの有効期間の日数		はい
パスワード	パスワードの履歴化を使用すると同じパスワードが使われることがなくなります。	ユーザパスワードを保存することにより、同じユーザによって同じパスワードが何度も続けて使用されることがないようにします。	はい
パスワード	パスワード失効までの日数	システムアラートを発するまでの日数。	はい
パスワード	パスワード形式を検証するライブラリの名前。	ユーザパスワードの形式を定義するライブラリ。	はい

セクション	オプション名	説明	値の例
全文検索	全文検索を有効にする	シンプルフィルタでは、デフォルトで演算子LIKEを使用できます。 この演算子は、1フィールドの値内でテキストを検索します。 この検索は直接AssetCenterによって実行されます。 一部のDBMSでは更に高性能な検索機能が提供されています。 この場合、この種の機能を使用可能にするには、DBMSで機能を有効にする必要があります。 この種の検索機能では、LIKEの代わりにCONTAINS演算子が使用されます。 〔全文検索を有効にする〕オプションをオンにすると、シンプルフィルタのエディタで、CONTAINS演算子を使用できるようになります。	はい

インデックス

PEREGRINE

- & (特殊文字), 41
- < (特殊文字), 41
- アイコン (参考 ツールバー)
- アクション
 - アクションボタン - 作成, 48
- アクションボタン, 48
- アクセスコントロール
 - オプション, 103
- アクセス制限
 - 例外, 39
- インデックス
 - カスタマイズ, 36
 - 挿入, 45
- インポート - オプション, 100
- インポート中の履歴を無効にする (オプション), 100
- ウィザード - オプション, 100
- オブジェクトの設定 (メニュー), 41
- カウンタ
 - デフォルト値, 39
 - 名前 - 特殊文字, 39
- カウンタ名, 39
- カスタマイズ, 15-21
 - ツールバー, 16
 - モジュール, 15
 - 一般的なオプション, 19
- サーバ: 基準となるGMTタイムゾーンとの時間差 (オプション), 104
- サイズ (パラメータ), 36
- システムデータ
 - オプション, 103
- スロットの更新間隔 (オプション), 103
- スロットの自動タイムアウト (オプション), 103
- タイムゾーン, 80
- タイムゾーン - オプション, 103
- タイムゾーンの使用 (オプション), 80
- タブページ, 18
- タブページの設定 (メニュー), 18
- ツール (参考 ツールバー)
- ツールバー
 - カスタマイズ, 16
 - デフォルトのツールバー, 17
- ボタン
 - 移動, 17
 - 削除, 17
 - 追加, 16
- 位置, 18
- 境界線
 - 削除, 17

- 追加, 17
- ツールバーのカスタマイズ (メニュー), 16, 16
- テーブル
 - カスタマイズ, 35
 - 作成, 44
- テーブルを追加 (メニュー), 44
- テスト (参考 テスト用データベース)
- テスト用データベース, 65-69
 - カスタマイズ, 65
- デフォルト値
 - アクセス制限, 39
 - カウンタ, 39
 - コメントテーブルへのリンク, 39
 - 記述 - エラー, 39
 - 特殊フィールド, 39
- デフォルト (パラメータ), 38
- データベース
 - (参考 データベースのカスタマイズ)
 - オプション, 97-105
 - 制限, 97
 - 設定, 97
 - 設定 - ウィンドウ, 98
 - 自動切断 - オプション, 103
- データベースオブジェクト, 61
- データベースオプション (参考 データベース)
- データベースオプション (メニュー), 97
- データベースに挿入可能な文書の最大サイズ (オプション), 103
- データベースのカスタマイズ, 33-64
 - アクションボタン, 48
 - インデックス, 45
 - オブジェクト, 43, 33
 - テーブル, 44, 35
 - フィールド, 45
 - フィールド、リンク、インデックス, 36
 - ページ, 62, 49
 - ボタン, 42
 - リンク, 45
 - 重要, 64
 - 詳細, 47, 42
 - 変更
 - コントロール, 64
 - バックアップ, 63
 - 言語, 63

- データベース設定の保存 (メニュー), 41
- データ: 基準となるGMTタイムゾーンとの時間差 (オプション), 103
- パスワード - オプション, 101
- ビュー, 25-29
 - クエリウィザード, 27
 - ボタン - 関連付け, 29
 - リスト, 27
 - 作成, 27
 - 削除, 27
 - 定義, 26
 - 表示, 27
 - 変更, 28
 - 編集, 28
- ビルド (オプション), 103
- フィールド
 - (参考 フィールドとリンクのヘルプ)
 - カスタマイズ, 36
 - デフォルト値, 39
 - 挿入, 45
- フィールド'XXX'が'XXX'に見つかりません (エラー), 39
- フィールドとリンクのヘルプ
 - 文字参照, 41
- フィールドとリンクのヘルプ - 認識されたHTMLタグ
 - 編集, 40
- フィールドの追加 (メニュー), 45
- フィルタ (パラメータ), 37
- ページ
 - 作成, 49
 - 詳細への追加, 62
- ページの追加 (メニュー), 49
- ボタン, 42
 - カスタマイズ, 21
- モジュール, 15
- モジュールの起動 (メニュー), 16
- ライセンス
 - データベースに保存されたファイル, 102
- ライセンス - オプション, 102
- ライセンスファイル (オプション), 102
- リース - オプション, 104
- リース - 料率 - オプション, 104
- リセット (ボタン), 20
- リンク

(参考 フィールドとリンクのヘルプ)
 カスタマイズ, 36
 デフォルト値, 39
 挿入, 45
 リンクの追加 (メニュー), 46
 ワンポイント - オプション, 100
 ワンポイントのテキスト (オプション), 100
 一般的なオプション, 19
 画面の再初期化 (メニュー), 15
 階層構造のテーブル, 46
 管理者権限 (オプション), 97
 経費明細 - オプション, 100
 現在のウィンドウからビューを作成 (メニュー), 27
 現在のビューを外す (メニュー), 28
 現在のビューを変更 (メニュー), 28
 合計した任意管理項目 - オプション, 103, 103
 資産リース料率の自動計算の承認 (オプション), 104
 自動切断を有効にする (オプション), 103
 実行エラー - タイプエラー (エラー), 39
 受領 - オプション, 99
 受領時に消耗品の経費明細を作成 (オプション), 100
 出力イベント - オプション, 104
 出力イベントの有効時間 (オプション), 104
 書式 (パラメータ), 37
 消耗品 - オプション, 100
 詳細
 カスタマイズ, 42
 ページ - 追加, 62
 詳細ウィンドウ (参考 詳細)
 詳細の追加 (メニュー), 47
 詳細画面 (参考 詳細)
 親リンクの追加 (メニュー), 46
 接続 - スロット - オプション, 103
 全文検索 - オプション, 105
 全文検索を有効にする (オプション), 105
 調達 - オプション, 99
 適用 (ボタン), 20
 統合された任意管理項目の再計算を無効にする (オプション), 103
 特殊フィールド
 デフォルト値, 39
 特殊文字, 39

読取り専用 (パラメータ), 37
 入力イベント - オプション, 104
 入力イベントの有効時間 (オプション), 104
 任意管理項目の追加 (オプション), 44
 認証 - オプション, 102
 認証にLDAPサーバを使用する (オプション), 101
 必須 (パラメータ), 37
 表示言語
 データベースへのオブジェクトの追加, 63
 文書 - オプション, 103
 無関連 (パラメータ), 37
 有効 (パラメータ), 35
 履歴 - オプション, 100
 履歴 (パラメータ), 36
 連続するスペース (特殊文字), 41

A

AssetCenter Database Administrator
 (参考 データベースのカスタマイズ)
 AssetCenter Serverで受領品をポートフォリオに自動的に作成 (オプション), 99
 AssetCenter Server署名 (オプション), 102

B

Basic - オプション, 100
 Basic関数 - オプション, 100
 Basic関数 (オプション), 100
 bin (ファイル), 67
 B (HTMLタグ), 40

C

cfg (ファイル), 67

D

dsd (ファイル), 67

F

FONT COLOR (HTMLタグ), 40
 FONT FACE (HTMLタグ), 40
 FONT SIZE=+n (HTMLタグ), 40
 FONT SIZE=-n (HTMLタグ), 40

H

HR (HTMLタグ) , 41

HSplitControl (オブジェクト区切り) , 61

I

I (HTMLタグ) , 41

L

LDAP - オプション, 101

LDAPサーバポート (オプション) , 102

LDAPサーバ名 (オプション) , 101

LDAPディレクトリのログインを格納する
[amEmplDept] テーブルのフィールドのSQL
名 (オプション) , 102

LI (HTMLタグ) , 41

R

Remote Controlサーバ署名 (オプション) , 103

S

SQL名

データベースオブジェクト - 競合, 64

str (ファイル) , 67

stt (ファイル) , 67

U

usr (ファイル) , 67

V

VSplitControl (オブジェクト区切り) , 61

W

wiz (ファイル) , 67

X

xml (ファイル) , 67

